

資料 4

地域リハビリテーション支援センター再指定に係る調査票

目次

資料 4-1	財団法人東京都保健医療公社 荏原病院
資料 4-2	慶応義塾大学病院
資料 4-3	財団法人東京都保健医療公社 豊島病院
資料 4-4	東京都リハビリテーション病院
資料 4-5	医療法人財団利定会 大久野病院

医療機関名：(財)東京都保健医療公社 在原病院

記入年月日

平成22年 3月 15日

1 病院の概要	
所在地	大田区東雪谷4丁目5番10号 (区南部 保健医療圏)
開設年月日	平成18年 4月 1日
設置目的	住民が必要とする保健医療サービスの提供
診療科目	内科、循環器内科、感染症内科、神経内科、精神科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、検査科輸血科
指定医療	二次救急医療機関、第一種及び第二種感染症指定医療機関
病床数	一般病床506床(うちリハビリ専門病床 15 4-5 床)
訪問・通所リハビリ	<input type="checkbox"/> 訪問リハビリ <input type="checkbox"/> 医療保険 <input type="checkbox"/> 介護保険 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ (介護保険)
併設施設	特になし

2 指定要件の充足状況

① 診療体制		地域におけるリハビリテーションの拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制を有すること	
		平成20年度 →	平成21年度
医療従事者	専従医師	常勤 非常勤	常勤 2名 非常勤 2名
	(内)ハ専門医	常勤 非常勤	常勤 1名 非常勤 1名
	理学療法士	常勤 非常勤	常勤 11名 非常勤 11名
	作業療法士	常勤 非常勤	常勤 5名 非常勤 5名
	言語聴覚士	常勤 非常勤	常勤 2名 非常勤 2名
	ソーシャルワーカー従事者	常勤 非常勤	常勤 4名 非常勤 4名
	医療施設	施設基準	■脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) ■運動器リハビリテーション料 (I)
※指定を受けたことによる診療体制の変更点や地域支援を実施する専門スタッフの充足状況等を記入してください。 地域リハビリテーション支援センターの事務担当として、非常勤事務職員を雇用している。			

② 連携体制

② 連携体制		他の医療機関、福祉施設等との連携、協力関係を有すること	
		平成20年度	平成21年度 (1月末実績)
医療機関との連携状況	紹介患者数 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	10,604 人	8,810 人
	逆紹介患者数 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	80 人	54 人
	逆紹介患者数 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	10,864 人	9,073 人
	紹介率 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	21.3 %	14.4 %
	紹介率 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	64.0 %	64.2 %
逆紹介率 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	72.7 %	64.4 %	
逆紹介率 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	56.8 %	56.7 %	
逆紹介率 (うちリハ*リテ*リソ*ソ部門)	193.6 %	165.5 %	

② 連携体制		平成20年度	→	平成21年度 (22.3現在)
医療機関との連携状況	登録医数 (うちリハビリテーション部門)	1,711 名	→	1,725 名
	連携病院数 (うちリハビリテーション部門)	38 件	→	38 件
連絡会、事例検討会の開催	連絡会の設置	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ※連絡会の人数、構成員等 18人(協力施設、地域医師会、関係行政機関)		
		連絡会の開催件数	平成20年度 →	平成21年度 →
		事例検討会等の開催件数	平成20年度 1 件 →	平成21年度 1 件
			平成20年度 0 件 →	平成21年度 0 件
※急性期、回復期、維持期の流れを踏まえたリハビリテーションにおける連携状況を記入してください。 当院で行うリハビリテーション医療は、入院での急性期～回復期初期のリハビリテーション医療と外来での回復期～維持期移行期のリハビリテーション医療が中心で、回復期の入院リハビリテーション医療は、協力病院や回復期リハビリテーション病棟のある医療機関を紹介するとともに、維持期の外来リハビリテーション医療は、連携医を中心に(医院・診療所)や各区で行っている機能回復訓練事業など地域リハビリテーション活動を紹介している。				
③ 相談体制		地域の関係機関からの相談に適切に応じ、必要な情報を提供できる体制にあること		
相談体制	医療相談室の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ※指定を受けたことによる相談体制の変更点を記入してください。 特になし		
	相談機関への支援	平成20年度 不詳 件 →	平成21年度 不詳 件	
	福祉用具等への相談に関する支援	平成20年度 不詳 件 →	平成21年度 不詳 件	
		平成20年度 不詳 件 →	平成21年度 不詳 件	
④ 研修体制		地域のリハビリテーションに携わる従事者、家族会、ボランティア等関係団体に対し研修を実施できる体制にあること		
地域リハビリテーション従事者等への研修、支援	実施回数 (内訳)院 内 外	平成20年度 →	平成21年度 →	
		3 回 →	3 回	
	参加者の延人数 (内訳)院 内 外	平成20年度 →	平成21年度 →	
		111 人 →	154 人	
※指定後、研修内容や実施規模などに変更点があれば記入してください。		平成20年度 37 人 →	平成21年度 43 人	
特になし		平成20年度 74 人 →	平成21年度 111 人	

3 平成20、21年度地域リハビリテーション支援事業実績報告書
 実施報告書 別紙1のとおり

4 平成22年度地域リハビリテーション支援事業実施計画(参考)
 実施計画書 別紙2のとおり

平成20・21年度地域リハビリテーション支援事業実施報告書

医療機関名	財団法人東京都保健医療公社 荏原病院	
二次保健医療圏名	区南部保健医療圏	
指定期間	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	
事業実施区域	保健医療圏内	大田区、品川区
	保健医療圏外	世田谷区、目黒区、港区
推進組織	名称	区南部地域リハビリテーション支援チーム
	構成	医師2人、リハビリテーション部門1人、医療相談部門1人、看護部門1人、事務部門3人
実施方法等	幹事会による方針検討と連絡会での具体的事業計画立案後、推進チームによる事業展開	

事業実施状況

(1) 地域リハビリテーション従事者の研修支援

名称	平成20年度		平成21年度	
	対象	大田区脳血管障害研究会リハビリテーション実技講座 医師、PTなど	大田区脳血管障害研究会リハビリテーション実技講座 医師、PTなど	参加者：36人
実施規模	参加者：36人	参加者：35人		
実施期日	平成20年10月27日	平成21年10月26日		
テーマ、内容	実技「楽々介助～患者様もご家族もハッピー♪～」	講演「荏原病院における脳卒中リハビリテーション管理と治療」 実技「転倒予防のための装具と軌漕び（脳卒中患者を中心に）～安全と快適さはまずあしもとから～」		
名称	地域リハビリテーション懇談会		地域リハビリテーション懇談会	
対象	医師		医療従事者	
実施規模	参加者：30人		参加者：75人	
実施期日	平成21年1月23日		平成22年1月29日	
テーマ、内容	講演会「地域連携を見据えた最新の脳卒中診療指針」 講演会「脳卒中中の地域連携の医療の課題」		講演会「脳卒中治療の最前線：荏原病院での実際」	
名称	地域リハビリテーション講演会		地域リハビリテーション講演会	
対象	医師など		医師など	
実施規模	参加者：46人		参加者：44人	
実施期日	平成21年3月25日		平成22年2月19日	
テーマ、内容	講演会「高次脳機能障害について」		講演会「高次脳機能障害の基礎知識と相談支援のポイント」	
特記事項 (※ 特に研修が必要と思った対象者、内容等あればご記入ください。)				

(2) 直接住民と接する相談機関の支援

		平成20年度	平成21年度
主な相談機関	品川区保健所の連絡員	品川区保健所の連絡員	品川区保健所の連絡員
	大田区行政センターの連絡員	大田区行政センターの連絡員	
相談件数	不詳	不詳	
内容	当支援センターで作成した「区南部保健医療圏 リハビリテーション医療機関マップ」を利用してもらった。	当支援センターで作成した「区南部保健医療圏 リハビリテーション医療機関マップ」を利用してもらった。	
特記事項	(※) 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。		

(3) 福祉用具、住宅改修等への相談に関する支援

		平成20年度	平成21年度
主な相談機関等	当院及び協力施設	当院及び協力施設	当院及び協力施設
	支援件数	不詳	不詳
内容	入院・通院中の患者に対する福祉用具、住宅改修等への相談は、それぞれの施設ごとに対応した。	入院・通院中の患者に対する福祉用具、住宅改修等への相談は、それぞれの施設ごとに対応した。	
特記事項	(※) 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。		

(4) 地域の関係団体の支援

		平成20年度	平成21年度
内容	1) 品川区2医師会・大田区3医師会主催の研究会 対象：医師 当院医師が勉強会などに参加した。 2) フォーラム大田高次脳対象：患者・家族 患者団体が企画した講演会などの案内を当院に掲示するなどして協力した。	1) 田園調布脳卒中病診連携の会 対象：医師 当院医師が講師などで参加した。 2) Stroke Network 対象：医師 当院医師が参加した。 3) 大田区第5回高次脳機能障害連絡会 対象：区行政・福祉職員 当院医師が講師として参加した。 4) フォーラム大田高次脳 対象：患者・家族 当院医師が活動に協力した。 5) 大田区脳血管障害研究会 対象：医師 当院医師が参加した。 6) 大田区整形外科医会 研修会 対象：医師 当院医師が講師として参加した。	
特記事項	(※) 特に要望の多かった支援内容等あればご記入ください。		

(5) 連絡会、事例検討会の実施

		平成20年度	平成21年度
名称		地域リハビリテーション支援事業幹事会	地域リハビリテーション支援事業幹事会
規模			
実施期日		平成20年6月27日	平成21年5月22日
内容		1. 昨年度までの支援事業内容について 2. 平成20年度の支援事業計画について 3. 意見交換 4. 品川区の協力施設の変更について	1. 昨年度までの支援事業内容について 2. 平成21年度の支援事業計画について 3. 意見交換
名称		地域リハビリテーション支援事業連絡会	地域リハビリテーション支援事業連絡会
規模			
実施期日		平成20年8月28日	平成21年6月26日
内容		1. 昨年度までの支援事業内容について 2. 平成20年度の支援事業計画について 3. 意見交換 4. 品川区の協力施設の変更について	1. 昨年度までの支援事業内容について 2. 平成21年度の支援事業計画について 3. 意見交換

(6) その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業

名称		平成20年度	平成21年度
規模			
内容		平成20年度地域リハビリテーション支援センター連絡会へ実務者が参加した。また、研修会へは当院・協力病院の職員が参加した。	
規模			参加者：100人
内容		都立神経病院実施の「第7回神経難病地域リハビリテーション研究会」へ当院医師が講師として参加した。	目黒区高次脳機能障害者支援センターいきいき*せかんど主催の「第2回高次脳機能障害者支援セミナー」へ当院医師が講師として参加した。
規模			参加者：50人
内容		他医療機関で行われた「区西南部・南部合同高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会」へ当院及び協力施設の職員が参加した。	第2回目目黒区高次脳機能障害者支援連絡会に当院医師、療法士が参加した。

地域リハビリテーション支援事業を進める上での問題点、今後の対応等

○特に問題点があればご記入ください。

支援事業を行う上で、事業の様々な事務作業を行う実務担当者の確保と育成が困難であることが、最も問題であると考えます。当院では、常勤の事務職員は年度ごとに異動で変わることがあり、その際の引き継ぎが不十分であることが多かった。また、支援事業専従の事務職員を雇用するには、非常勤(アルバイト)形態であるために、雇用賃金が安く、有能な人材を確保できない状況がある。

○取り組んでよかったこと、他の支援センターにも薦めたい取組があればご記入ください。

地域の中で少しずつだが、「リハビリテーション」に関心を示してくれる医師が増えてきている。また、区南部地域にほとんどなかった回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関ができた。

○今後の対応

・次の2年間で課題に思っていることはありますか、目標はありますか

地域リハビリテーションの支援対象を医療機関中心から、地域の行政・福祉機関や患者会などに徐々に広げていきたい。

・協力病院を募る予定はありますか。

リハビリテーション支援医師になってくれる医院・診療所については、協力医療機関として登録していきたい。

・各支援センターで共通に取り組んだ方がいいと思われる事柄がありますか。調査等「その他地域のリハビリテーション」の推進に必要な事業」で実施したことも含めて答えてください。

「高次脳機能障害」は、東京都福祉保健局の支援普及事業の一つであることから、今後も取り組む必要があると考えます。

・地域において特に支援のニーズを感じる事柄がありますか。

今後、地域の中で実際にリハビリテーションに従事している医療スタッフの交流や、介護保険のリハビリテーションにかかわっているスタッフの支援などが必要になると考える。

○その他何かございましたら、ご記入ください。

この地域リハビリテーション支援事業について見直そうという動きがあると聞いているが、東京都の各地域の中で、いまだに十分なリハビリテーション活動が展開できていない状況から、本支援事業の継続が望まれる。

平成 22 年度地域リハビリテーション支援事業実施計画

1	医療機関名			
	財団法人東京都保健公社 荏原病院			
2	二次保健医療圏名			
	区南部保健医療圏			
3	事業実施予定年月日			
	平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで			
4	事業実施予定地域 (※区市町村名を記入してください)			
	二次保健医療圏内	二次保健医療圏外		
大田区 品川区		世田谷区 目黒区 港区		
5	推進チーム (組織) の運営			
	名称	設置場所	人数	
区南部地域リハビリテーション支援チーム (代表: 尾花 正義)		財団法人 東京都保健医療公社 荏原病院 リハビリテーション科 内	医師 リハビリテーション部門 医療相談部門 看護部門 事務部門	2 人 1 人 1 人 1 人 3 人
6	相談体制	名称	職種	人数
	地域医療連携室		医療ソーシャルワーカー 看護師	4 人 1 人
[福祉用具、住宅改修等の相談の場合] 福祉用具、受託改修等相談係			理学療法士 作業療法士 医療ソーシャルワーカー	1 人 1 人 1 人
7	研修会等		実施予定回数	開催予定場所
	名称	対象		
	大田区脳血管障害研究会 リハビリテーション 実 技 講 座	医師、PT、OT、 看護師、ケアマネー ジャー等	年 2 回	(財) 東京都保健医療公社 荏 原 病 院 東京労災病院 等
	地域リハビリテーション 懇 話 会	医師、PT、OT、 看護師、ケアマネー ジャー等	年 3 回	昭和大学病院
昭和大学 藤下・摂食研究会		医師、PT、OT、 ST、看護師、栄養 士 等	年 1 回	昭和大学病院

講演会	医療機関 福祉機関 行政機関 等	年 1 回 以上	未 定												
8 事例検討会、連絡会 等	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1899 229 1953 549">名 称</th> <th data-bbox="1899 549 1953 820">予定回数</th> <th data-bbox="1899 820 1953 1145">主な構成員又は参加者</th> <th data-bbox="1899 1145 1953 1481">人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1765 229 1899 549">地域リハビリテーション支援事業幹事会</td> <td data-bbox="1765 549 1899 820">年 1 回</td> <td data-bbox="1765 820 1899 1145">推進チーム代表 医師会代表 協力施設代表等</td> <td data-bbox="1765 1145 1899 1481">12人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1630 229 1765 549">地域リハビリテーション支援事業連絡会</td> <td data-bbox="1630 549 1765 820">最低 年 1 回</td> <td data-bbox="1630 820 1765 1145">推進チーム代表 医師会代表 協力施設代表等</td> <td data-bbox="1630 1145 1765 1481">20人</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	予定回数	主な構成員又は参加者	人 数	地域リハビリテーション支援事業幹事会	年 1 回	推進チーム代表 医師会代表 協力施設代表等	12人	地域リハビリテーション支援事業連絡会	最低 年 1 回	推進チーム代表 医師会代表 協力施設代表等	20人		
名 称	予定回数	主な構成員又は参加者	人 数												
地域リハビリテーション支援事業幹事会	年 1 回	推進チーム代表 医師会代表 協力施設代表等	12人												
地域リハビリテーション支援事業連絡会	最低 年 1 回	推進チーム代表 医師会代表 協力施設代表等	20人												
9	<p>協力施設（二次保健医療圏内の医療機関）との連携・協力について</p> <p>予定している協力施設名</p> <p>昭和大学病院リハ診療科 N T T 東日本関東病院リハ科 東邦大学医学部リハ科 東京労災病院リハ科</p>	<p>連携・協力の内容</p> <p>品川区の研修会等は、昭和大学病院、N T T 東日本関東病院の協力を得る。 大田区の研修会等は、東京労災病院、東邦大学医学部にも協力を得る。</p>													
10	<p>その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業</p> <p>診療報酬改定等により、既存マツゾ（2008年版）の内容が変わることから、医師会等の協力を得ながら、区南部保健医療圏リハビリテーション実施医療機関の調査を行い、医療機関マツゾの更新を検討する。</p> <p>また、地域から要望の多い高次脳機能障害者の評価のために、評価テスト類をそろえて対応する。</p>														
11	<p>概算経費</p> <p>総額 2, 453千円（内訳は別紙年間執行計画書のとおり）</p> <p>主な経費（賃金（アルバイト雇用）、報酬費、役員費、委託費等）</p>														
12	<p>事業実施に当たっての方針等</p> <p>同じ区南部保健医療圏でも、大田区と品川区では、それぞれ地域リハビリテーション事業への考え方が違い、これまでに、それぞれの区の地域リハビリテーション事業に関わってきた医療機関が存在することから、今までに培われている地域リハビリテーションの体制を重視しつつ、さらに、区南部医療圏における地域リハビリテーション体制が発展・充実するように、地域リハビリテーション支援センターとして事業を実施していく。</p>														
13	<p>その他（地域における問題点、課題等）</p> <p>医療機関だけでなく、行政機関・福祉関係機関・患者会などとの連携をはかる必要がある。</p>														

医療機関名： 慶應義塾大学病院

記入年月日 平成22年 3月 31日

1 病院の概要	東京都新宿区信濃町35番地 (区西部保健医療圏)	
所在地	東京都新宿区信濃町35番地	
開設年月日	1920年 11月 6日	
設置目的	高度の医療を提供するとともに高度な医療に関する研究・開発・評価・研修などを行い、人類の福祉の向上に貢献する。	
診療科目	呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、腎臓・内分泌・代謝内科、血液内科、リウマチ内科、老年内科、一般・消化器外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、麻酔科、整形外科、形成外科、小児科、産科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、精神科、神経科、放射線治療・核医学科、放射線診断科、歯科・口腔外科、リハビリテーション科、救急科	
指定医療	特定機能病院 / エイズ拠点病院 / 特定承認保険医療機関 / 救急病院 / 身体障害者福祉法指定 (東京都) / 労災保険指定病院 / 東京都災害時後方医療施設	
病床数	一般病床 1,056床 (うちリハビリ専門病床 4床)	
訪問・通所リハビリ	<input type="checkbox"/> 訪問リハビリ <input type="checkbox"/> 医療保険 <input type="checkbox"/> 介護保険 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ (介護保険)	
併設施設	なし	

2 指定要件の充足状況	地域におけるリハビリテーションの拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制を有すること				
① 診療体制	医療従事者	平成20年度 → 平成21年度			
		専従医師	常勤 12名 非常勤 12名	常勤 12名 非常勤 12名	
		(内)小専門医	常勤 7名 非常勤 7名	常勤 8名 非常勤 8名	
		理学療法士	常勤 12名 非常勤 12名	常勤 12名 非常勤 12名	
		作業療法士	常勤 4名 非常勤 4名	常勤 4名 非常勤 4名	
		言語聴覚士	常勤 3名 非常勤 3名	常勤 3名 非常勤 3名	
		ソーシャルワーカー従事者	常勤 1名 非常勤 1名	常勤 1名 非常勤 1名	
		医療施設	医療施設 施設基準 ↳脳血管疾患等リハビリテーション科 (I) ↳運動器リハビリテーション科 (I)		
		※指定を受けたことによる診療体制の変更点や地域支援を実施する専門スタッフの充足状況等を記入してください。 平成17年度にOTを1名増員し4名となり、平成18年4月よりSTが1名増員となり3名となった。			
		② 連携体制	他の医療機関、福祉施設等との連携、協力関係を有すること		
医療機関との連携状況	紹介患者数 (うちリハビリテーション部門)	平成20年度 22,105人	→	平成21年度 20,378人	
	逆紹介患者数 (うちリハビリテーション部門)	14,229人	→	14,709人	
	紹介率 (うちリハビリテーション部門)	65.8%	→	66.1%	
	逆紹介率 (うちリハビリテーション部門)	28%	→	31.8%	
				→	46.9%

登録医数 (うちリハビリテーション部門) 連携病院数 (うちリハビリテーション部門)	実施なし	→	実施なし	名
	105 件	→	103 件	件
連絡会、事例検討会の開催	連絡会の設置	□有 ※連絡会の人数、構成員等 15名、リハビリテーション科、神経内科、脳神経外科医師、ケースワーカー、PT、OT、ST、保健師		
		平成20年度	→	平成21年度
		連絡会の開催件数	1 件	→
事例検討会等の開催件数	4 件	→	10 件	件
※急性期、回復期、維持期の流れを踏まえたリハビリテーションにおける連携状況を記入してください。1.急性期：脳卒中、外傷性脳損傷、各種神経筋疾患、呼吸器疾患、循環器疾患の急性期リハビリテーションおよびほぼ全科に渡る回復期のリハビリテーションを担当し、回復期・維持期の施設との連携を図っている。2.回復期・維持期：同期を担当する医療機関、地域資源と連携しつつ(二次医療圏内の一部の施設には常勤または非常勤医を派遣)、高度のリハビリテーション医療介入が必要な際に外来もしくは短期入院で対応している。さらにリハビリの提供、スキルアップのための講習会、臨床研究の支援を行っている。また、区総合福祉センターに週1回専門医を派遣し、在宅訪問を行い、リハ指導を実施している。				

③ 相談体制				
地域の関係機関からの相談に適切に応じ、必要な情報を提供できる体制にあること				
相談体制	医療相談室の有無	□有 ※指定を受けたことによる相談体制の変更点を記入してください。		
		平成20年度	→	平成21年度
相談機関への支援		件	→	件
福祉用具等への相談に関する支援		120 件	→	120 件

④ 研修体制				
地域のリハビリテーションに携わる従事者、家族会、ボランティア等関係団体に対し研修を実施できる体制にあること				
地域リハビリテーション シヨンの従事者等への支援	実施回数 (内訳) 院 内 外	平成20年度	→	平成21年度
		3 回	→	12 回
参加者の延人数 (内訳) 院 内 外	426 人	→	1604 人	
	52 人	→	132 人	
	374 人	→	1472 人	
※指定後、研修内容や実施規模などに変更点があれば記入してください。 地域リハに関わる各地の専門職団体、総合福祉センター、当院以外の地域リハビリテーション支援センター主催の研修会、講習会等に講師を派遣し、地域リハビリテーションの推進に努めている。				

3 平成20、21年度地域リハビリテーション支援事業実績報告書
実施報告書 別紙1のとおり

4 平成22年度地域リハビリテーション支援事業実施計画(参考)
実施計画書 別紙2のとおり

平成20・21年度地域リハビリテーション支援事業実施報告書

医療機関名	慶應義塾大学病院	
二次保健医療圏名	区西部保健医療圏	
指定期間	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	
事業実施区域	保健医療圏内	新宿区、中野区、杉並区
	保健医療圏外	世田谷区、目黒区、港区
推進組織	名称	メトロ・リハビリテーションネットワーク
	構成	10名(医師4名、PT2名、OT1名、ST1名、ナーズ1名、MSW1名)
	実施方法等	講演会・研修会の実施、事例検討会、連絡会の開催、相談事業、地域リハに関する調査・研究

事業実施状況

(1) 地域リハビリテーション従事者の研修支援

名称		平成20年度	平成21年度
対象	循環器科チームL2008-脳卒中撲滅を目指して	第26回リハビリテーション医療懇話会	医師、コメディカル
実施規模	200名	300名	
実施期日	2008/6/	2009/7/11	
テーマ、内容	脳卒中リハビリテーション	各病院における取り組み	
名称	第22回リハビリテーション医療懇話会	ADL評価法講習会	医師、コメディカル
対象	医師、コメディカル	医師、コメディカル	
実施規模	260名	400名	
実施期日	2008/7/12	2009/11/14	
テーマ、内容	各病院における取り組み	ADL評価法(FIM)についての講習	
名称	市民公開講座	新宿区	
対象	一般市民	ケアマネージャー	
実施規模	150名	50名	
実施期日	2008/10/17	2010/2/2	
テーマ、内容	脳卒中で倒れたら-地域で生活するまでのリハビリテーション	地域で活かすリハビリテーション	
名称	ADL評価法講習会	第18回高度先進リハビリテーション研究会	医師、コメディカル
対象	医師、コメディカル	150名程度	
実施規模	400名	2010/2/27	
実施期日	2008/11/22		
テーマ、内容	ADL評価法(FIM)についての講習	リハビリテーション医学・医療の最前線	
名称	中野区保健福祉部政策課題研修	地域で役立つリハビリテーション	
対象	中野区の職員(事務、介護職、看護師)	ケアマネージャー	
実施規模	50名	16名	
実施期日	2009/1/	2010/3/12	
テーマ、内容	高次脳機能障害とは？評価のポイントとリハビリテーションの実践	PT、OTによる講演、実技	
名称	新宿区保健福祉部福祉講演会		
対象	一般市民と区の職員(事務、介護職、看護師)		
実施規模	100名		
実施期日	2009/2/		
テーマ、内容	高次脳機能障害を理解しよう		
名称	第17回高度先進リハビリテーション研究会		
対象	医師、コメディカル、一般市民、行政、マスコミ		
実施規模	150名程度		
実施期日	2009/2/28		
テーマ、内容	リハビリテーション医学・医療の最前線		
名称	第4回大都市型脳卒中診療体制構築研究会		
対象	医師、コメディカル		
実施規模	80名		
実施期日	2009/3/12		
テーマ、内容	現状報告5題、特別講演1題、意見交換会		
特記事項	(※ 特に研修が必要と思つた対象者、内容等あればここに記入ください。)		

(2) 直接住民と接する相談機関の支援

		平成20年度	平成21年度
主な相談機関		世田谷区総合福祉センター	世田谷区総合福祉センター
相談件数		月平均20件	月平均20件
内容		リハ医療の要否、訪問リハの方法の相談	リハ医療の要否、訪問リハの方法の相談
主な相談機関		SECOM訪問看護ステーション(新宿)	SECOM訪問看護ステーション(新宿)
相談件数		月平均10件	月平均10件
内容		リハ医療の要否、訪問リハの方法の相談	リハ医療の要否、訪問リハの方法の相談
主な相談機関		杉並区役所	杉並区役所
相談件数		週一回	週一回
内容		転倒予防教室	転倒予防教室
特記事項			

(3) 福祉用具、住宅改修等への相談に関する支援

		平成20年度	平成21年度
主な相談機関等		世田谷区総合福祉センター	世田谷区総合福祉センター
支援件数		月平均10件	月平均10件
内容		補装具の処方・適合、住宅改修、福祉機器の適応	補装具の処方・適合、住宅改修、福祉機器の適応
主な相談機関等		SECOM訪問看護ステーション(新宿)	SECOM訪問看護ステーション(新宿)
支援件数		月平均5件	月平均5件
内容		補装具の処方・適合、住宅改修、福祉機器の適応	補装具の処方・適合、住宅改修、福祉機器の適応
特記事項			

(4) 地域の関係団体の支援

		平成20年度	平成21年度
名称		ポストポリオ健診 ポリオの会会員	ポストポリオ健診 ポリオの会会員
対象		ポストポリオの可能性の診断・評価、生活指導、補装具処方、運動療法指導、定期的フォローアップ(H20年度は約10名が対象)。	ポストポリオの可能性の診断・評価、生活指導、補装具処方、運動療法指導、定期的フォローアップ(H21年度は約10名が対象)。
名称		SMON健診事業の支援 スモン連絡協議会会員	SMON健診事業の支援 スモン連絡協議会会員
対象			
内容		スモン患者の健診(約10名)	スモン患者の健診(約10名)
特記事項			

(5) 連絡会、事例検討会の実施

平成20年度		平成21年度	
名称	脳卒中診療連携世話人会	脳卒中診療連携世話人会	
規模	15名	15名	
実施期日	2009.3.12	2009.3.12	
内容	リハビリテーション科、神経内科、脳神経外科の脳卒中診療に関係する医師が集まり、人口規模が大きく、広域性を特徴とする大都市圏における実効性のある急性期一回復期一維持期の脳卒中診療体制を構築するための戦略についての検討を行った。	リハビリテーション科、神経内科、脳神経外科の脳卒中診療に係る医師が集まり、人口規模が大きく、広域性を特徴とする大都市圏における実効性のある急性期一回復期一維持期の脳卒中診療体制を構築するための戦略についての検討を行った。	
名称	慶應一河北リハ病院連絡会	慶應一河北リハ病院連絡会	
規模	4名	4名	
実施期日	月1回	月1回	
内容	急性期を担当する本院と区西部の回復期リハを担当している河北病院との診療連携を円滑にするために、スタッフを河北病院に派遣し、連携強化の具体的方策について話し合いを行っている。	急性期を担当する本院と区西部の回復期リハを担当している河北病院との診療連携を円滑にするために、スタッフを河北病院に派遣し、連携強化の具体的方策について話し合いを行っている。	
名称	慶應一世田谷地域リハビリ連絡会	新宿区リハビリテーション連携バスモデル事業会議	
規模	25名	20名	
実施期日	年2-3回	4回	
内容	地域リハビリにおける支援ニーズの内容を明らかにするために、地域リハビリに関わる職員との交流、また現場の状況を知るために、症例検討会や研修会への参加を行っている。	新宿区のリハビリテーション連携バスモデル事業の立案、実行に関しての連絡会議の進捗を新宿区より依頼あり行っている	
特記事項	<p>(※ 参加者から特に要望のあったこと、連携に関して他の医療機関にも取り組んだほうが良いと思われる工夫等あればご記入ください。)</p>		

(6) その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業

新宿区リハビリテーション連携バスモデル事業		大都市圏脳卒中診療連携体制の構築	
名称	新宿区全般	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県	
規模			
内容	新宿区が計画している、リハビリテーション連携バスモデル事業への協力を行う。具体的には、病院から自宅通院の流れにおいて、スムーズなリハビリ介入を行うために、新宿区内の老人保健施設との連携や施設の利用を行う。	他の支援センターとの連携を強化して、日常診療圏に基づいた広域的なリハビリテーション連携体制の構築を行う。大都市圏診療連携推進のための、研究会を立ち上げ、またITを活用した広域的な情報交換システム(リハナビ東京)、共通のデータベースの構築を行っている。	

地域リハビリテーション支援事業を進める上での問題点、今後の対応等

○特に問題点があればご記入下さい
特に取りません

○取り組みがよくなったこと、他の支援センターにも進めたい取り組みがあればご記入下さい

*昨年度より、新宿区のリハビリテーション連携バス乗降事業の協力をしている。

急性期病院から老人保健施設を経て自宅連院の流れにおいて、効果的なリハビリテーションを行うための連携バス作成の事業である。

昨年度は計画の段階であったが、今年度は実際にバスが開始となった。

支援センターとして、会議への出席(計4回)やプログラムへのアドバイザー、適応となる患者紹介などによって事業への協力をしている。

区と連携することで、地域との連携をさらに強かに図ることができると考える。

*今年度は、さらに上記事業の一環としてケアマネジャーへの啓蒙活動として、ケアマネジャーを対象としたリハビリの講演会を行った。

*新宿区の事業協力により、地域のケアマネジャーのニーズを拾い上げることができたので、それを踏まえてケアマネジャーを対象とした

実技を含めた研修会を行った。対象をしぼり、さらにそのニーズを事前に知っておくことで、効果的な研修会を行うことができたと考えている。

*講演は、区の研修会で行ったため、ケアマネジャーの出席率が非常によかった。また研修会はセンターとして主催したが、講演時に行ったアンケート結果を踏まえて行ったため、ニーズを知ることができたと考ええる。

○今後の対応

・次の2年間で課題に思っていることはありますか、目標はありますか。

昨年度、本年度と新宿区のリハビリテーション連携バス事業への協力に伴い、急性期病院から回復期病院さらに地域のリハビリテーション連携が重要と感じている。また地域のリハビリテーションをさらに充実させるために、ケアマネジャーへの啓蒙活動を、もっと積極的に行ってきたい。今回、少人数のケアマネジャー対象の研修会を行ったが、反応がよく充実したものになったので、今後も同様の研修会を多数回行うことを目標としたい。

昨年度と本年度は、新宿区の事業に協力して有効な結果が得られたため、今後は杉並区や中野区とも協力して行える事業を探していきたい。

・協力病院を募る予定はありますか。

今回新宿区の事業において関わりのあった国際医療センターや東京女子医科大学病院、東京厚生年金病院などと、同じ急性期病院として協力することができればと思っている。

これまでも連携をとってきた回復期病院である河北病院との連携をさらに強化していきたい。

・各支援センターで共通に取り組んだほうがいいと思われる事柄がありますか。調査等「その他地域のリハビリテーションの推進に必要な事業」で実施したことも含めて教えてください。

・地域において特に支援のニーズを感じる事柄がありますか。

平成22年度地域リハビリテーション支援事業実施計画(案)

1	医療機関名				
	慶應義塾大学病院地域リハビリテーション支援センター				
2	二次保健医療圏名				
	区西部				
3	事業実施予定年月日				
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで				
4	事業実施予定地域(※区市町村名を記入してください)				
	二次保健医療圏内				二次保健医療圏外
	新宿区、中野区、杉並区				世田谷区、目黒区、港区
5	推進チーム(組織)の運営				
	名称	設置場所	人数		
		メトロ・リハビリテーションネット	慶應義塾大学病院リハビリテーション科	10名(医師4名、PT2名、OT1名、ST1名、チャース1名、MSW1名)	
		(代表者： 里宇明元)			
6	相談体制				
	名称	職種	人数		
	リハビリテーション医療相談	医師、看護師	5名		
	リハビリテーション技術相談	PT、OT、ST	3名		
	リハビリテーション推進体制相談	医師、PT、MSW	3名		
	リハビリテーション調査研究相談	医師	3名		
	補装具クリニック	医師、PT	3名		
		[福祉用具、住宅改修等の相談の場合]			
		世田谷区総合福祉センター支援	医師	3名	
		新宿訪問看護入セッション支援	医師	1名	
7	研修会等				
	名称	対象	実施予定回数	開催予定場所	
	急性期、回復期、維持期病院交流・情報交換会	医師、PT、OT、ST、MSW	年2回	慶應義塾大学病院	
	リハビリテーション医療懇話会	医師、PT、OT、ST、MSW、心理	年1回	慶應義塾大学病院	

ADL 評価法講習会	医師、看護師、保健師、PT、OT、ST、MSW、介護福祉士	年 1 回	慶應義塾大学病院	
	認知リハビリテーション研究会	医師、看護師、保健師、PT、OT、ST、臨床心理士	年 1 回	慶應義塾大学病院
	高度先進リハビリテーション研究会	医師、看護師、保健師、PT、OT、ST、MSW、臨床心理士、介護福祉士、障害者、家族、ボランティア、行政、経済・社会学系研究者	年 1 回	慶應義塾大学病院
	地域リハビリに関わる方々への研修会	医師、看護師、保健師、PT、OT、ST、ケアマネジャー	年 1 回	慶應義塾大学病院
8 事例検討会、連絡会 等				
名称	予定回数	主な構成員又は参加者	人数	
地域スタッフとの在宅同行訪問によるリハビリテーション指導 (世田谷区)	週 1 回	医師、PT、OT、保健師、ソーシャルワーカー	1 回 5 名程度	
地域スタッフとの在宅同行訪問によるリハビリテーション指導 (新宿区)	月 1 回	保健師、PT	1 回 5 名程度	
新宿区精神保健福祉連絡会	月 1 回程度予定	当院医師と新宿区精神保健福祉に関わる保健師、MSW など	1 回 3-4 名	

9	協力施設（二次保健医療圏域内の医療機関）との連携・協力について 予定している協力施設名	連携・協力の内容
	①河北リハビリテーション病院 ②新宿区内の老人保健施設 東京厚生年金病院、国立国際医療センター	①急性期一回復期のリハビリ医療連携 ②地域支援の共同実施
10	その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業 ITを活用した大都市圏脳卒中診療連携体制構築事業 地域リハビリに関わる方々への研修会 回復期病院、維持期病院との交流会 新宿区リハビリテーション連携パスモデル事業への協力	
11	概算経費 総額 254,6千円（内訳は別紙年間執行計画書のとおり） 主な経費（賃金、需用費、役員費、備品購入費）	
12	事業実施に当たったの方針等 前年度に引き続いて、大学病院としての特殊性を活かした、より効果的・効率的な地域リハビリテーションシステム構築のためのノウハウの提供および問題点の抽出と解決策の提案につながる調査研究の推進に重点を置いていく。 昨年度は、スーパーバイザーとして協力を行っている新宿区の「リハビリテーション連携モデル事業」が具体的に開始し、地域との連携の問題点が明らかになった。その一つであるケアマネジャーのリハビリに対する知識不足への対応として、講演会や研修会を行った。 来年度は、事業への協力を継続して行い、ケアマネジャーへの啓蒙のための研修会もさらに積極的に行っていきたい。 また、可能であれば新宿区だけでなく杉並区や中野区とも連携を考えていきたい。	
13	その他（地域における問題点、課題等）	

医療機関名：(財)東京都保健医療公社豊島病院

記入年月日

平成22年3月16日

1 病院の概要		所在地		板橋区栄町33番1号		(区西北部保健医療圏)	
開設年月日		昭和7年10月1日		*平成21年4月1日		東京都保健医療公社に運営移管	
設置目的		(東京都保健医療公社設立目的) 包括的・合理的な医療供給体制の確立を図るため、地域医療のシステム化を推進し、包摂的・合理的な医療供給体制の確立を図るため、地域医療に関する調査・研究を行うとともに、住民が必要とする保健医療サービスの提供等を行い、住民の医療と福祉の向上に寄与することを目的とする。					
診療科目		内科、循環器内科、神経内科、緩和ケア内科、精神科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、感染症内科、麻酔科					
指定医療		健康保険法による保険医療機関、保険薬局、第二種感染症指定医療機関、結核予防法による指定医療機関、生活保護法による指定医療機関、身体障害者福祉法による更生医療を担当する病院、児童福祉法による指定育成医療機関、原子爆弾被害者に対する援護に関する法律による指定医療機関、母子保健法による養育医療機関、労災保険指定病院、東京都エイズ診療拠点病院指定、救急病院、精神科夜間休日救急診療、精神科患者身体合併症医療、地域周産期母子医療センター、臨床研修を行う病院(医科)、臨床研修を行う病院(歯科)					
病床数		一般病床327床(うちリハビリ専門病床 13床)		*予算定床			
訪問・通所リハビリ		<input type="checkbox"/> 訪問リハビリ <input type="checkbox"/> 医療保険 <input type="checkbox"/> 介護保険 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ (介護保険)					
併設施設		なし					
2 指定要件の充足状況							
① 診療体制		地域におけるリハビリテーションの拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制を有すること					
		平成20年度		→		平成21年度	
医療従事者		専従医師		常勤 2名	非常勤 0名	常勤 2名	非常勤 0名
		(内)ハ専門医)		常勤 2名	非常勤 0名	常勤 2名	非常勤 0名
理学療法士		常勤 5名		非常勤 2名		常勤 5名	
		非常勤 2名		非常勤 2名		非常勤 2名	
作業療法士		常勤 4名		非常勤 3名		常勤 4名	
		非常勤 3名		非常勤 3名		非常勤 3名	
言語聴覚士		常勤 1名		非常勤 2名		常勤 2名	
		非常勤 2名		非常勤 1名		非常勤 1名	
ソーシャルワーカー従事者		常勤 4名		非常勤 1名		常勤 4名	
		非常勤 1名		非常勤 1名		非常勤 1名	
医療施設		施設基準		<input checked="" type="checkbox"/> 脳血管疾患等リハビリテーション料(1) <input checked="" type="checkbox"/> 運動器リハビリテーション料(1)			
		※指定を受けたことによる診療体制の変更点や地域支援を実施する専門スタッフの充足状況等を記入してください。					
		なし					

② 連携体制

他の医療機関、福祉施設等との連携、協力関係を有すること

		平成20年度	→	平成21年度(月現在)
医療機関との連携状況	紹介患者数	8,891 人	→	7,931 人
	(うちリハビリテーション部門)	66 人	→	39 人
	逆紹介患者数	7,562 人	→	6,466 人
	(うちリハビリテーション部門)	150 人	→	65 人
	紹介率	65.9 %	→	66.9 %
(うちリハビリテーション部門)	83.5 %	→	93.0 %	
逆紹介率	45.4 %	→	43.5 %	
(うちリハビリテーション部門)	189.9 %	→	127.5 %	

② 連携体制

		平成20年度	→	平成21年度
医療機関との連携状況	登録医数	名	→	621 名
	(うちリハビリテーション部門)	名	→	26 名
連絡会、事例検討会の開催状況	連携病院数	件	→	件
	(うちリハビリテーション部門)	件	→	件
連絡会、事例検討会の開催状況	連絡会の設置	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ※連絡会の人数、構成員等 区西北部地域リハビリテーション担当連絡会 24名 (4区の地域リハビリテーション担当部門の担当者、院内地域リハビリテーション支援センター推進連絡会メンバー) 区西北部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会 約50名 (自治体、医療機関、当事者・家族会、精神保健関係機関、東京都心身障害者福祉センター)		
		連絡会の開催件数	平成20年度 2件	→
	事例検討会等の開催件数	5件	→	1件
	※急性期、回復期、維持期の流れを踏まえたリハビリテーションにおける連携状況を記入してください。			

院内他科からの積極的なリハビリテーション(リハ)適応患者、また近隣の急性期病院からのリハ適応患者は併存疾患に拘らず早期から受け入れ、自宅復帰を目標とした集中的なリハを実施している。ケアマネージャーとも連携し、退院後は外来リハを行いながら、徐々に介護保険サービスに移行するよう調整している。維持期の機能低下例に対しては家族指導も含めた短期集中リハ(入院、外来)を実施している。

③ 相談体制

地域の関係機関からの相談に適切に応じ、必要な情報を提供できる体制にあること

		平成20年度	→	平成21年度
相談体制	相談体制	医療相談室の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※指定を受けたことによる相談体制の変更点を記入してください。	
	臨時職員(福祉職)を2名配置			
相談機関への支援		65 件	→	64 件
福祉用具等への相談に関する支援		41 件	→	50 件

④ 研修体制					
地域のリハビリテーションに携わる従事者、家族会、ボランティア等関係団体に対し研修を実施できる体制にあること					
	地域リハビリテーション従事者等への支援	平成20年度		平成21年度	
		実施回数		実施回数	
	(内訳)院 内 外	12 回	→	10 回	→
	参加者の延人数 (内訳)院 内 外	2 回	→	0 回	→
		10 回	→	10 回	→
		545 人	→	346 人	→
		15 人	→	16 人	→
		530 人	→	330 人	→
※指定後、研修内容や実施規模などに変更点があれば記入してください。					
平成19年度まで板橋区との共催で開催していた「いたばし事例検討会」を発展させ、北区・板橋区・練馬区共催、豊島区後援による「生活支援に関するリハ・ケア事例検討会(区西北部)」を開催 ・施設単位の個別事例検討会を医師が直接出向く「リハビリ出前相談」として実施					

3 平成20、21年度地域リハビリテーション支援事業実績報告書	別紙1のとおり
---------------------------------	---------

4 平成22年度地域リハビリテーション支援事業実施計画(参考)	別紙2のとおり
---------------------------------	---------

平成20・21年度地域リハビリテーション支援事業実施報告書

医療機関名	財団法人東京都保健医療公社豊島病院	
二次保健医療圏名	区西北部二次保健医療圏	
指定期間	平成20年4月1日から平成22年3月31日まで	
事業実施区域	保健医療圏内	板橋区、練馬区、豊島区、北区
	保健医療圏外	
推進組織	名称	地域リハビリテーション支援センター推進連絡会 (代表者: リハビリテーション科医長 中島英樹)
	構成	13名 医師 1名 ・ 言語聴覚士 1名 ・ 理学療法士 1名 ・ 作業療法士 1名 看護師 1名 ・ MSW 1名 ・ 事務 5名 ・ 臨時職員(福祉職) 2名
	実施方法等	院内に推進組織を設置して実施

事業実施状況

(1) 地域リハビリテーション従事者の研修支援

		平成20年度	平成21年度
名称	対象		
	実施規模		
	実施期日	平成20年7月～11月〔4回〕	平成21年6月18日
	テーマ、内容	「アセスメント力を高める」	「高齢者の障害・症状を理解する～片麻痺という障害を理解する」
名称	対象	介護支援専門員・PT・介護職等	介護職
	実施規模	参加者 約150名	参加者 38名
	実施期日	平成20年10月14日・11月21日	平成21年7月10日
	テーマ、内容	隣下について	「脳卒中リハを行うための医学的基礎知識」
名称	対象	介護職	施設職員(PT, OT, Ns他)
	実施規模	参加者 34名	参加者 9名
	実施期日	平成20年10月14日・11月21日	平成21年7月10日
	テーマ、内容	練馬区ケアマネジャー連絡会、リハビリテーション従事者連絡会合同研修会	練馬区 シルバージュナイ石神井(有料老人ホーム) 研修会
名称	対象	介護支援専門員・PT・OT・ST	介護職
	実施規模	参加者 114名	参加者 26名
	実施期日	平成20年12月5日	平成21年7月28日
	テーマ、内容	リハビリ出前相談事例紹介	「リハビリ～介護予防と機能維持～」
名称	対象	生活支援に関するリハ・ケア事例検討会(区西北部)	豊島区 地域包括支援センター ふくろの杜 研修会
	実施規模	参加者 171名	介護支援専門員
	実施期日	平成20年12月20日	平成21年9月25日
	テーマ、内容	「異なる職種・地域の支援内容を知る」	「在宅でのリハビリテーション～機能を維持するために必要なリハビリテーションの知識・技術」

名称	対象		板橋区 介護の福まね嬉(訪問介護)研修会
	実施規模		介護職、介護専門員 参加者 12名
	実施期日		平成21年10月14日
名称	対象		「リハビリテーション～介護予防と機能維持～」
	実施規模		北区 エムエム介護サービス 研修会
	実施期日		訪問看護師、介護専門員 参加者 10名 平成21年10月27日
名称	対象		「構音障害のリハビリテーション」
	実施規模		練馬区 ケアプラザ練馬ステーション 研修会
	実施期日		介護職、介護専門員、施設職員 参加者 23名 平成21年11月27日
名称	対象		「在宅リハビリを行うための医学的基礎知識」
	実施規模		板橋区 林クリニック 研修会
	実施期日		PT, OT, 介護専門員、介護職、医師、 看護師、事務 参加者 14名 平成21年12月5日
名称	対象		「在宅リハビリを行う上で必要な医学的知識」
	実施規模		生活支援に関するリハ・ケア事例検討 会(区西北部)
	実施期日		リハビリテーション関連施設で高齢者、 障害者の生活支援に携わっている方 参加者 176名 平成21年12月12日
名称	対象		「維持期のリハ・ケアを考える」
	実施規模		北区 さわやか訪問介護ステーション 研修会
	実施期日		訪問看護師、介護専門員、PT 参加者 15名 平成22年1月15日
名称	対象		「在宅リハビリ(訪問看護)を行うための 医学的基礎知識」
	実施規模		
実施期日			
テーマ、内容			
特記事項	(※)特に研修が必要と思つた対象者、内容等あればご記入ください。		

(2) 直接住民と接する相談機関の支援

		平成20年度	平成21年度
主な相談機関	相談件数	居宅介護支援、訪問介護、通所介護、通所リハビリテーション等の事業を行なう施設・医療機関 月平均5件	居宅介護支援、訪問介護、通所介護、通所リハビリテーション等の事業を行なう施設・医療機関 月平均5件
	内容	リハビリテーション科への入院相談、患者様に対するリハビリテーションの実施方法に関する相談等	リハビリテーション科への入院相談、患者様に対するリハビリテーションの実施方法に関する相談等
	特記事項 (※ 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。)	上記は医療相談室におけるリハビリテーションに関する相談と、メール・フアクシミリによる相談事業の実績	上記は医療相談室におけるリハビリテーションに関する相談と、メール・フアクシミリによる相談事業の実績

(3) 福祉用具、住宅改修等への相談に関する支援

		平成20年度	平成21年度
主な相談機関等	患者様及び家族	患者様及び家族	患者様及び家族
	支援件数	月平均3件	月平均4件
内容	自宅退院に向けての在宅改修及び手続き、介護保険を利用した福祉機器のレンタル等	自宅退院に向けての在宅改修及び手続き、介護保険を利用した福祉機器のレンタル等	
特記事項 (※ 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。)	上記は医療相談室におけるリハビリテーションに関する相談と、メール・フアクシミリによる相談事業の実績	上記は医療相談室におけるリハビリテーションに関する相談と、メール・フアクシミリによる相談事業の実績	

(4) 地域の関係団体の支援

		平成20年度	平成21年度
名称	対象	板橋区医師会・板橋区脳卒中懇話会 公開講座への講師派遣	板橋区医師会地域医療研修会への講師派遣
	内容	板橋区民 リハビリテーション科 中島医長 講演 「脳卒中後のリハビリテーションの大切さ」	地域医療機関関係者 リハビリテーション科 中島医長 講演 「在宅でのリハビリを考える」
名称	対象	練馬区医師会 講演会への講師派遣 医師会会員	
	内容	リハビリテーション科 中島医長 講演 「脳卒中医療連携講演会」	
名称	対象	医療連携講演会等の開催 医師会・歯科医師会・薬剤師会の会員等	医療連携講演会等の開催 医師会・歯科医師会 薬剤師会の会員等
	内容	最新の医療情報等についての講演等	最新の医療情報等についての講演等
特記事項 (※ 特に要望の多かった支援内容等あればご記入ください。)			

(5) 連絡会、事例検討会の実施

		平成20年度	平成21年度
名称	規模	区西北部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会 参加者 55名	区西北部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会 参加者 44名
	実施期日	平成20年9月16日	平成21年12月18日
	内容	実施状況報告、意見交換等	事例発表、実施状況報告、意見交換
名称	規模	区西北部地域リハビリテーションセッション担当者連絡会 参加者 22名	区西北部地域リハビリテーションセッション担当者連絡会 参加者 22名
	実施期日	平成21年3月16日	平成22年3月24日
	内容	区西北部二次保健医療圏内の4区の地域リハビリテーション担当部門の担当者等による、事業実施状況、実施計画についての意見交換等	区西北部二次保健医療圏内の4区の地域リハビリテーション担当部門の担当者等による、事業実施状況、実施計画についての意見交換等
名称	規模	生活支援に関するリハ・ケア事例検討会(区西北部) 参加者 171名	生活支援に関するリハ・ケア事例検討会(区西北部) 参加者 176名
	実施期日	平成20年12月20日	平成21年12月12日
	内容	・基調講演「終末期リハビリテーション」 ・各区の事業報告 ・地域のリハビリ、介護従事者による事例発表	・基調講演「当事者の主体的な参加を考える―通所リハビリを中心に―」 ・各地域の活動報告 ・地域のリハビリ、介護従事者による事例発表
名称	規模	個別事例検討会(リハビリ出前相談)(開催場所:練馬区光が丘地域包括支援センター) 参加者 19人	
	実施期日	平成20年9月26日	
	内容	関係機関における具体的な事例について検討し、リハビリテーションの円滑な実施を支援することを目的として、個別事例検討会(リハビリ出前相談)を開催	
名称	規模	個別事例検討会(リハビリ出前相談)(開催場所:練馬区石神井地域包括支援センター―練馬ゆめの木支所) 参加者 37人	
	実施期日	平成20年10月3日	
	内容	同上	
名称	規模	個別事例検討会(リハビリ出前相談)(開催場所:豊島区東部地域包括支援センター) 参加者 14人	
	実施期日	平成20年12月12日	
	内容	同上	

名称	個別事例検討会(リハビリ出前相談) (開催場所:城北訪問看護ステーション)	
規模	参加者 6人	
実施期日	平成21年1月30日	
内容	同上	
特記事項		
<small>(※ 参加者から特に要望のあったこと、連携に関して他の医療機関にも取り組んだほうが良いと思われる)</small>		

(6) その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業

		平成20年度	平成21年度
名称		地域リハビリテーション相談事業	地域リハビリテーション相談事業
規模		リハビリテーション関連施設の従事者	リハビリテーション関連施設の従事者
内容		リハビリテーション関連施設の従事者を対象として、リハビリテーションに関する必要な情報を提供し、リハビリテーションの円滑な実施をサポートすること等を目的として主に医療面での相談事業を実施。 ・実施方法:メールとフアクシミリにより、相談依頼票を受付、回答する。	リハビリテーション関連施設の従事者を対象として、リハビリテーションに関する必要な情報を提供し、リハビリテーションの円滑な実施をサポートすること等を目的として主に医療面での相談事業を実施。 ・実施方法:メールとフアクシミリにより、相談依頼票を受付、回答する。
規模		ビデオ・DVD貸出事業	ビデオ・DVD貸出事業
内容		リハビリテーション関連施設の従事者をサポートすること等を目的として、ビデオ「お食事前の準備体操」(摂食・嚥下障害の患者様対象)を作成、貸出。	リハビリテーション関連施設の従事者をサポートすること等を目的として、ビデオ・DVD「お食事前の準備体操」(摂食・嚥下障害の患者様対象)を作成、貸出。

地域リハビリテーション支援事業を進める上での問題点、今後の対応等

○特に問題点があればご記入ください。

現在、看護師不足により一部病棟を閉鎖し、リハビリ専門病床を縮小しているため、回復期相当の患者の受入れが困難となっている。

(平成22年6月に1病棟を再開予定)

○取り組んでよかったこと、他の支援センターにも薦めたい取組があればご記入ください。

これまで所在地である板橋区との連携を中心としてきたが、「生活支援に関するリハ・ケア事例検討会」の開催に当たり、区西北部全体に共催・後援という連携体制をつくることができた。

・地域の現場に出向き、双方向性の議論ができる個別事例検討会(リハビリ出前相談)は、地域での問題点の理解に有用であった。

○今後の対応

・次の2年間で課題に思っていることはありますか、目標はありますか

他の3区と比較すると豊島区の行政との連携がやや不十分であるため、協力体制を強化する必要がある。

・協力病院を募る予定はありますか。

平成21年度に練馬区・北区の病院を協力施設とすることができた。今後、豊島区においても協力施設を募っていく。

・各支援センターで共通に取り組んだ方がよいと思われる事柄がありますか。調査等「その他地域のリハビリテーションの推進」に必要な事業」で実施したことも含めて教えてください。

二次保健医療圏の圏域外へのリハビリテーションに関する転院等についての連携

・地域において特に支援のニーズを感じる事柄がありますか。

福祉関連施設に対する、医療面でのリハビリテーションに関する支援

○その他何かございましたら、ご記入ください。

東京都地域リハビリテーション支援事業実施計画書

1	支援センター名		
	財団法人東京都保健医療公社豊島病院		
2	二次保健医療圏名		
	区西北部二次保健医療圏		
3	事業実施予定年月日		
	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで		
4	事業実施予定地域（※区市町村名を記入してください）		
	二次保健医療圏内	二次保健医療圏外	
	板橋区、練馬区、豊島区、北区		
5	推進チーム（組織）の運営	設置場所	人数
	地域リハビリテーション支援センター 推進連絡会 （代表：リハビリテーション科医長 中島 英樹）	財団法人 東京都保健医療公社 豊島病院	13名
6	相談体制	職種	人数
	名称	職	人
	医療相談室	MSSW 臨時職員	5名 2名
	リハビリテーション科	医師 PT・OT・ST(常勤)	2名 11名
	〔福祉用具、住宅改修等の相談の場合〕		
	同上	同上	同上
	（相談内容により他機関への紹介を行う。）		

7 研修会等				
名 称	対 象	実施予定回数	開催予定場所	
地域リハビリテーションに関する研修会	リハビリテーション及び介護関連施設の従事者	5回	豊島病院 又は施設と調整開催	
8 事例検討会、連絡会等				
名 称	予定回数	主な構成員又は参加者	人 数	
生活支援に関する リハ・ケア事例検討会	1回	リハビリテーション及び介護関連施設の従事者	約200人	
生活支援に関する リハ・ケア事例検討会 実行委員会	5回	関係機関の 地域リハビリテーション 担当部門の担当者等	約30人	
地域リハビリテーション 担当者連絡会	1回	同上	約20人	
リハビリ出前相談 (個別事例検討会)	5回	リハビリテーション及び 介護関連施設の従事者	各10人程度	
9 概算経費				
総額 2,456千円 (内訳は別紙年間執行計画書のとおり)				
主な経費 (臨時職員賃金、講演会等講師謝礼、消耗品費 等)				
10 その他 (事業実施に関する方針、意見等)				
<p>(1) 昨年度の事業実績を踏まえ、本年度も引き続きリハビリテーション関連施設の従事者を対象とした相談事業や講演会、事例発表検討会等を実施し、必要な支援を行っていく。</p> <p>(2) 事業の実施にあたっては、板橋区をはじめ、北区、練馬区、豊島区の関係機関と連携して事業を実施していく。</p> <p>(3) 区西北部二次医療圏は、広域かつ、人口も都内の圏域で最も多いことから、医療圏全域においてより充実した事業展開を図るため、各区の地域リハビリテーション担当部門及び協力施設と緊密な連携を図る。</p>				

医療機関名： 東京都リハビリテーション病院

記入年月日

平成22年 3月12日

1 病院の概要	
所在地	東京都墨田区堤通2-14-1 (区東部 保健医療圏)
開設年月日	平成22年5月31日
設置目的	東京都におけるリハビリテーション医療の中核的施設であり、リハビリテーション医療を専門的に行う必要のある患者に対し、高度医療機能を持つ専門病院である。また、医療関係者の教育・研修やリハビリテーションの臨床研究を行う役割もあわせもった病院である。さらに、災害時には、白鬚東防災拠点内の災害医療センターとして医療救護活動の拠点に転換するという複合目的をもった病院である。
診療科目	リハビリテーション科、整形外科
指定医療	(労) (結) (生) (更) (育) (原) (精・通)
病床数	一般病床 165床 (うちリハビリ 専門病床165床)
訪問・通所リハビリ	■訪問リハビリ (■医療保険 ■介護保険 □通所リハビリ (介護保険))
併設施設	なし

2 指定要件の充足状況

① 診療体制

地域におけるリハビリテーションの拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制を有すること

	平成20年度		平成21年度	
	→	→	→	→
医療従事者	専従医師	常勤 13名 非常勤 1名	常勤 15名 非常勤 1名	15名
	(内) 専門医	常勤 7名 非常勤 0名	常勤 8名 非常勤 0名	8名
	理学療法士	常勤 20名 非常勤 9名	常勤 19名 非常勤 10名	29名
	作業療法士	常勤 12名 非常勤 7名	常勤 13名 非常勤 7名	20名
	言語聴覚士	常勤 5名 非常勤 3名	常勤 4名 非常勤 4名	8名
	ソーシャルワーカー従事者	常勤 4名 非常勤 2名	常勤 4名 非常勤 2名	6名
	医療施設	■脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) ■運動器リハビリテーション料 (I)		

※指定を受けたことによる診療体制の変更点や地域支援を実施する専門スタッフの充足状況等を記入してください。

② 連携体制

他の医療機関、福祉施設等との連携、協力関係を有すること

	平成20年度	→	平成21年度
紹介患者数	727人	→	707人
(うちリハビリテーション部門)	515人	→	477人
逆紹介患者数	744人	→	640人
(うちリハビリテーション部門)	464人	→	452人
紹介率	89.6%	→	92.6%
(うちリハビリテーション部門)	98.7%	→	99.6%
逆紹介率	90.6%	→	84.4%
(うちリハビリテーション部門)	88.9%	→	93.6%

医療機関との連携状況

② 連携体制		医療機関との連携状況	登録医数 (うちリハビリテーション部門) 連携病院数 (うちリハビリテーション部門)	平成20年度 名 名 件 件	→ → → →	平成21年度 名 名 件 件
		連絡会、事例検討会の開催	連絡会の設置	平成20年度 2 0	→ →	平成21年度 8 3
③ 相談体制		地域の関係機関からの相談に適切に応じ、必要な情報を提供できる体制にあること		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※指定を受けたことによる相談体制の変更点を記入してください。		
		相談体制	医療相談室の有無	平成20年度 132 多数	→ →	平成21年度 135 多数
④ 研修体制		地域のリハビリテーションに携わる従事者、家族会、ボランティア等関係団体に対し研修を実施できる体制にあること		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※指定を受けたことによる相談体制の変更点を記入してください。		
		研修体制	地域リハビリテーション従事者等の研修の支援	平成20年度 6 0 6	→ → →	平成21年度 7 回 回
		参加者の延人数	内 372 11 361	→ → →	429 15 414	
		※指定後、研修内容や実施規模などに変更点があれば記入してください。				

3 平成20、21年度地域リハビリテーション支援事業実績報告書	別紙1のとおり
---------------------------------	---------

4 平成22年度地域リハビリテーション支援事業実施計画 (参考)	別紙2のとおり
----------------------------------	---------

平成20・21年度地域リハビリテーション支援事業実施報告書

医療機関名	東京都リハビリテーション病院	
二次保健医療圏名	区東部保健医療圏	
指定期間	H20.4.1～H22.3.31	
事業実施区域	保健医療圏内	墨田区、江戸川区、江東区
保健医療圏外		
推進組織	名称	医療福祉連携室 地域リハビリテーション科
構成	リハ専門医 1名、作業療法士 1名 MSW1名 事務担当1名 看護師0.5名 ○必要時 院内スタッフ: 院長・事務長・事務次長・作業療法士・言語療法士・リハ工学士・歯科医等 院内にて地域医療福祉連携委員会実施中(1回/月)	
実施方法等		

事業実施状況

(1) 地域リハビリテーション従事者の研修支援

名称		平成20年度	平成21年度
対象		出張研修会 訪問看護師等	出張研修会 訪問看護師等
実施規模		31名	32名
実施期日		2008/6/25 18:30～20:30	2009/10/22 18:30～20:31
テーマ、内容		当院OTが江戸川区訪問看護ステーション協会の求めに応じて、腰痛などを伴わない安全な移動・移乗介助の仕方についての研修会。 出張研修会	当院OTが江東区訪問看護ステーション協会の求めに応じて、キネズテイクスの手技を利用した介助方法の指導を実施。 実践講座 摂食・嚥下リハビリテーション研修会初級編
名称		実践講座 摂食・嚥下リハビリテーション研修会初級編	
対象		ホームヘルパー等	
実施規模		20名	
実施期日		2008/12/6 10:00～12:00	
テーマ、内容		当科OTが墨田区みどり地域包括支援センターの求めに応じて、出張研修会を開催した。概要は介護予防体操などを中心に指導を行った。	
名称		実践講座 摂食・嚥下リハビリテーション研修会初級編	
対象		看護師・ケアマネ・ヘルパー・OT・PT・ST・栄養士等	
実施規模		37名	
実施期日		2008/11/29 9:45～16:30	
テーマ、内容		摂食・嚥下のリハビリテーションについて実践を交えた総合的な研修を実施。講師は医師、歯科医師、OT、ST、歯科衛生士、管理栄養士、看護師が担当した。	
名称		認知症のチームケア～認知症のBPSDに対するチームケア～	
対象		医療福祉従事者・一般区民等	
実施規模		198名	
実施期日		2009/1/24 15:00～17:15	
テーマ、内容		認知症のBPSD等の周辺症状を木之下徹先生を招いて実施。その他、墨田・江東・江戸川区の行政代表者より認知症対策について講演があった。	
名称		実践講座 摂食・嚥下リハビリテーション研修会経験者編	
対象		看護師・ケアマネ・ヘルパー・OT・PT・ST・栄養士等	
実施規模		25名	
実施期日		2009/11/27 12:30～17:00	
テーマ、内容		実践を交えた総合的な研修を実施。初級編のステップアップバージョンとして開催した。調理やバンドを使ったより実践的な研修会となった。講師は医師、歯科医師、ST、歯科衛生士、管理栄養士、看護師が担当した。	
名称		出張研修会	
対象		看護師・ヘルパー等	
実施規模		20名	
実施期日		2009/11/7 18:00～20:00	
テーマ、内容		当科OTがトリーツお花茶屋(葛飾区)の求めに応じて、出張研修会を実施した。概要はケアにおける動きの動作について講演を行い、負担の少ない介護方法について指導を行った。	

名称	出張研修会		墨田区介護予防普及啓発事業 腰痛(膝痛)予防講演会 一般区民など
対象	看護師・ヘルパー等		各36名
実施規模	40名		
実施期日	2009/2/20 18:00～20:00	第1回2009/12/14 14:00～15:30(院長) 第2回2009/12/21 14:00～15:30(OT)	墨田区の要望により、当院長とOTが出席しての研修会を実施した。概要は、腰痛予防のメカニズムや腰痛予防の体操などについて、2回に分けて講演を行った。
テーマ、内容	当科OTが医療法人社団養育会(江東区)の求めに応じて、出張研修会を実施した。概要は安全な移乗と移動の仕方について実践講義を行った。		
名称	実践講座 摂食・嚥下リハビリテーション シヨ シ研修会初級編		生活を支える高次脳機能リハビリテーション シ 医療福祉従事者・一般区民等
対象	看護師・ケアマネ・ヘルパー・OT・PT		211名
実施規模	35名		
実施期日	2009/2/21 9:45～16:30	2010/2/27 14:00～17:00	高次脳機能障害の症状とグループリハビリテーションなどの効果について、橋本圭司先生を招いて実施。その他、墨田・江東・江戸川区の行政代表者より高次脳機能障害者対策について講演があった。
テーマ、内容	摂食・嚥下のリハビリテーションについて実践を交えた総合的な研修を実施。講師は医師、歯科医師、OT、ST、歯科衛生士、管理栄養士、看護師が担当した。		
特記事項 (※ 特に研修が必要と思った対象者、内容等あればご記入ください。)			

(2) 直接住民と接する相談機関の支援	平成20年度	平成21年度
主な相談機関	居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、病院、医院等	居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、病院、医院等
相談件数	132件(新規のみ)	135件(新規のみ)
内容	訪問リハビリ依頼等	訪問リハビリ依頼等
特記事項 (※ 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。)		

(3) 福祉用具、住宅改修等への相談に関する支援	平成20年度	平成21年度
主な相談機関等	居宅介護支援事業所、家族	居宅介護支援事業所、家族
支援件数	多数	多数
内容	ECSS設置管理・IT関連 車椅子クッションの選定、杖選定など	ECSS設置管理・IT関連 車椅子クッションの選定、杖選定など
特記事項 (※ 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。)		

(4) 地域の関係団体の支援

名称		平成20年度	平成21年度
名称	出張相談会		
対象	江戸川区立障害者支援ハウス利用者		
内容	上記施設利用者や施設職員に対して、当院の医師やOT、MSW、看護師などが出張し、リハビリテーションに関するアドバイスを実施する。4～5名程度の利用者に対して、指導を行っている。		
特記事項 (※ 特に要望の多かった支援内容等あればご記入ください。)			

(5) 連絡会、事例検討会の実施

名称		平成20年度	平成21年度
名称	区東部地域リハビリテーション連絡協議会幹事会		区東部地域リハビリテーション連絡協議会幹事会
規模	幹事25名＋事務局(5～7名)		幹事25名＋事務局(6名)
実施期日	第1回H20.5.29 第2回 21.3.19	平成22年3月24日	
内容	墨田区、江東区、江戸川区に跨る地域リハビリテーションシステム考案のため、実務担当者による会議を開催している。実務者は、各区行政、各地区医師会、各区介護保険事業所、各区病院代表者などで形成されている。	墨田区、江東区、江戸川区に跨る地域リハビリテーションシステム考案のため、実務担当者「墨田区在宅リハビリテーション支援事業」の検討、リハビリテーションに関する地域の意見交換などを目的に開催している。構成員は、行政代表、医師会代表、病院代表、介護保険関連施設代表などで構成されている。	
名称	区東部地域リハビリテーション連絡協議会		区東部地域リハビリテーション連絡協議会
規模	委員12名＋事務局5名	幹事7名＋オゾガバー3名＋事務局5名	
実施期日	平成20年6月25日	第1回H21.8.27 第2回H22.3.9	
内容	リハビリテーション資源の調査を実施し、その結果に基づきリハビリテーションプログラムの企画と作成を行った。委員構成は各区行政代表、訪問看護ステーション代表、ケアマネの代表などで構成された。	墨田区におけるリハビリテーションシステムの考案や「墨田区在宅リハビリテーション支援事業」の検討、リハビリテーションに関する地域の意見交換などを目的に開催している。構成員は、行政代表、医師会代表、病院代表、介護保険関連施設代表などで構成されている。	
名称	江戸川区高次脳機能障害者支援ネットワーク会議		区東部地域リハビリテーション連絡協議会
規模	委員15名	幹事9名＋事務局6名	
実施期日	平成20年7月24日	第1回H21.5.28 第2回H21.7.2 第3回H22.3.19	
内容	江戸川区における高次脳機能障害者支援の連携強化を目指す会議で、区が主体的に実施している会議に参加(当院は区東部地域リハ支援センターとして、オゾガバー参加)した。	江東区におけるリハビリテーションシステムの考案や、リハビリテーションに関する地域の意見交換などを目的に開催している。構成員は、行政代表、医師会代表、病院代表、介護保険関連施設代表などで構成されている。	

名称		区東部地域リハビリテーション連絡協議会
規模		幹事5名＋事務局6名
実施期日		第1回H21.5.14 第2回H21.10.6
内容		江戸川区におけるリハビリテーションシステムの考察や、リハビリテーションに関する地域の意見交換などを目的に開催している。構成員は、行政代表、医師会代表、病院代表、介護保険関連施設代表などで構成されている。
特記事項		
(※ 参加者から特に要望のあったこと、連携に関しても他の医療機関にも取り組んだほうが良いと思われる工夫等あればご記入ください。)		

(6) その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業

名称	平成20年度	平成21年度
規模	【資源調査の実施】 区東部地区における地域リハビリテーション資源調査の実施 【リハビリテーションマップ作成】 区民向けマップ墨田版 5000部作成 (20年6月完成) 墨田版インターネット媒体 (21年2月公開)	【資源調査の実施】 区東部地区における地域リハビリテーション資源調査の実施 【リハビリテーションマップの作成】 区民向けマップ江東 江戸川区版 5000部作成 (21年10月完成) 江東区・江戸川区版インターネット媒体 (22年4月公開予定)
内容	医療機関相互の連携及び相談業務従事者の参考資料として活用することを目的に、墨田区リハビリテーション実施機関(医療機関、デイサービス、訪問看護、介護老人保健施設)等のリハビリテーション資源を調査を元に、マップ作成を実施した。区民向けにはインターネット媒体にて公開を行った。 平成20年度は11月より、江東区、江戸川区への資源調査を実施している。	目的などは左に同じ。 20年度に調査を実施した、江東区、江戸川区の情報をリハビリテーションセンターマップにまとめ、インターネット媒体の公開準備を進めた。
規模		区東部・東北部東北部合同高次脳機能障害者地域支援ネットワーク会議
内容		区東部・東北部が合同にて、高次脳機能障害者支援について検討などを行う会議。東京都心身障害者支援センターが主催で、各地域リハビリテーション支援センターが共催の形式を取っている。概要は医療・福祉・介護保険機関や患者会、行政等が一堂に会して支援方法等が検討された。 墨田区在宅リハビリテーション支援事業事務局(墨田区より委託)
規模		
内容		この事業は、区東部地域リハビリテーション連絡協議会にて勘案されたもので、平成20年度～平成22年度までの3カ年計画にて先駆的の事業として運営されている。平成21年度は江東区や江戸川区にも事業実施を働きかけた(リフレット参照)。

地域リハビリテーション支援事業を進める上での問題点、今後の対応等

○特に問題点があればご記入ください。

依然として、周知度が低い点。

○取り組んでよかったこと、他の支援センターにも薦めたい取組があればご記入ください。

墨田区在宅リハビリテーション支援事業に取り組み、行政、医師会と連携がとれる様になった。

○今後の対応

・次の2年間で課題に思っていることはありますか、目標はありますか

・協力病院を募る予定はありますか。

・各支援センターで共通に取り組んだ方がいよいと思われる事柄がありますか。調査等「その他地域のリハビリテーションの推進に必要な事業」で実施したことも含めて答えてください。

・地域において特に支援のニーズを感じる事柄がありますか。

中等度障害以上の方のリハビリテーション支援について。

介護保険の特定疾患患者からの訪問リハ利用が増えている。

○その他何かございましたら、ご記入ください。

平成 22 年度地域リハビリテーション支援事業実施計画

1	医療機関名	東京都リハビリテーション病院		
	二次保健医療圏名	区東部二次保健医療圏		
2	事業実施予定年月日	平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで		
	事業実施予定地域 (※区市町村名を記入してください)	墨田区 江東区 江戸川区		
3	推進チーム (組織) の運営	設置場所	人	数
	医療福祉連携室 地域リハビリテーション科	東京都リハビリテーション病院 2 階 医療福祉連携室内	専門医 1 名 作業療法士 1 名 相談員 1 名 連携担当事務 1 名 看護師 0.5 名 非常勤理学療法士 1 名	
4	相談体制	職	人	数
	地域リハビリテーション科 相談担当	メデイカルソーシャルワーカー (社会福祉士)		1 名
5	研修会等	実施予定回数	開催予定場所	
	公開講座 「リハビリテーションに関連する講演会」	1 回	墨田区 曳舟文化センター (300 名規模)	
6	実践講座 「摂食・嚥下リハビリテーション 研修会 初級編・経験者編」	各 1 回 (計 2 回)	東京都リハビリテーション病院 (30～40 名規模)	
	公開講座 「脳卒中患者等の自動車 運転復帰に関する講座」	1 回	詳細未定 (すみだ産業会 館を予定)	
7	地域リハビリテーション科 相談担当	専門医 又は 作業療法士		各 1 名
	〔福祉用具、住宅改修等の相談の場合〕 地域リハビリテーション科 訪問リハビリテーションサービス等 (必要に応じ、リハビリ学士、義肢装具士、 理学療法士などと協力している)			

8 事例検討会、連絡会 等			
名 称	予定回数	主な構成員又は参加者	人 数
区東部地域リハビリテーション連絡協議会 (3 区合同)	2 回 (9 月と 3 月頃)	行政・医師会・医療機関・介護保険関連事業者など	25 名程度
9 協力施設 (二次保健医療圏域内の医療機関) との連携・協力について 予定している協力施設名 なし			
10 その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業 当支援センターでは、墨田区在宅リハビリテーション支援事業を受託しており、墨田区での推進会議を開催する必要がある。また、22 年度以降は当センター圏域の江東区、江戸川区でも同様の事業が開始される予定で、推進会議への協力などが求められる。			
11 概算経費 総額 千円 (内訳は別紙年間執行計画書のとおり) 主な経費 ()			
12 事業実施に当たっての方針等 癌や糖尿病などの地域リハに特徴的なケースに対応するリハビリテーション指導ができるスタッフの育成なども視野に入れて、研修事業の充実を図る予定。			
13 その他 (地域における問題点、課題等) いわゆる医療圏内での患者の行き来が少ないため、2 字保健医療圏での活動に限界を感じている。			

平22年度地域リハビリテーション支援センター再指定に係る調査票

医療機関名： 医療法人財団利定会大久野病院 記入年月日 平成 22年 3月 17日

1 病院の概要	
所在地	西多摩郡日の出町大久野 6 4 1 6 (西多摩保健医療圏)
開設年月日	平成 1 1 年 9 月 1 日
設置目的	<p>(医療法人財団利定会 定款より抜粋) 本財団は、病院を経営し、科学的且つ適正な医療（および疾病、負傷等により寝たきりの状態である老人に対し、看護、医学的管理下の介護および必要な医療等）を普及させることを目的とする。</p> <p>(コンセプト) ●普通の生活のある大きな家 ここには、ケアする側とされる側に垣根はありません。長期療養される方に、安心と喜びそして互いの信頼感に満ちた日々の生活を共有する。それは病院ではなく「大きな家」。 ●生活の場である事 病院からイメージされる、非日常的な雰囲気（緊張感/無機的/冷たさ）をできるだけ和らげ、または心理的なストレスを感じさせない雰囲気づくりを目指し、患者さん達に普通の生活のある空気を作り出す。 ●喜びや生き甲斐を見出せる場である事 入院している以上、治療や闘病生活は避ける事は不可能であるが、毎日の生活の中に、生きているからこそ感じる事のできる喜びや好奇心を刺激できる工夫を盛り込む。 ●自立支援の場である事 福祉の世界で重要とされているノーマライゼーションの理念に基づき、障害をもったままでも健常者と何ら遜色のない生活環境を作り上げ、自立生活への意欲を向上させる。</p>
診療科目	内科・リハビリテーション科・皮膚科
指定医療	生活保護・原爆医療・労災・東京都神経難病医療協力機関・自立支援医療（精神通院）・身体障害者福祉法指定医（肢体不自由）
病床数	医療療養病床 1 5 8 床（うちリハビリ専門病床 4 2 床）
訪問・通所リハビリ	☑訪問リハビリ（☑医療保険 ☑介護保険） ☐通所リハビリ（介護保険）
併設施設	訪問看護ステーション・指定居宅介護支援事業所

2 指定要件の充足状況																		
① 診療体制																		
地域におけるリハビリテーションの拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制を有すること	平成20年度 → 平成21年度																	
	<table border="1"> <tr> <td>専従医師</td> <td>常勤 4 名 非常勤 1 2 名</td> <td>常勤 4 名 非常勤 1 2 名</td> </tr> <tr> <td>(内) 専門医</td> <td>常勤 0 名 非常勤 0 名</td> <td>常勤 0 名 非常勤 1 名</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>常勤 1 6 名 非常勤 0 名</td> <td>常勤 1 6 名 非常勤 1 名</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>常勤 1 0 名 非常勤 0 名</td> <td>常勤 1 1 名 非常勤 0 名</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>常勤 6 名 非常勤 0 名</td> <td>常勤 5 名 非常勤 1 名</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワーカー</td> <td>常勤 5 名 非常勤 0 名</td> <td>常勤 5 名 非常勤 0 名</td> </tr> </table>	専従医師	常勤 4 名 非常勤 1 2 名	常勤 4 名 非常勤 1 2 名	(内) 専門医	常勤 0 名 非常勤 0 名	常勤 0 名 非常勤 1 名	理学療法士	常勤 1 6 名 非常勤 0 名	常勤 1 6 名 非常勤 1 名	作業療法士	常勤 1 0 名 非常勤 0 名	常勤 1 1 名 非常勤 0 名	言語聴覚士	常勤 6 名 非常勤 0 名	常勤 5 名 非常勤 1 名	ソーシャルワーカー	常勤 5 名 非常勤 0 名
専従医師	常勤 4 名 非常勤 1 2 名	常勤 4 名 非常勤 1 2 名																
(内) 専門医	常勤 0 名 非常勤 0 名	常勤 0 名 非常勤 1 名																
理学療法士	常勤 1 6 名 非常勤 0 名	常勤 1 6 名 非常勤 1 名																
作業療法士	常勤 1 0 名 非常勤 0 名	常勤 1 1 名 非常勤 0 名																
言語聴覚士	常勤 6 名 非常勤 0 名	常勤 5 名 非常勤 1 名																
ソーシャルワーカー	常勤 5 名 非常勤 0 名	常勤 5 名 非常勤 0 名																
医療従事者																		

医療施設 施設基準 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)

※指定を受けたことによる診療体制の変更点や地域支援を実施する専門スタッフの充足状況等を記入してください。

〔平成21年度途中より、リハビリテーション専門医が非常勤だが着任した。また、高次脳機能障害者等へのリハビリテーションの強化等の観点から平成22年3月1日から、東京都より自立支援医療(精神通院)の指定も受けた。〕

② 連携体制

他の医療機関、福祉施設等との連携、協力関係を有すること

	平成20年度	→	平成21年度
紹介患者数 (うちリハビリテーション部門)	280 人	→	261 人
逆紹介患者数 (うちリハビリテーション部門)	171 人	→	171 人
紹介率 (うちリハビリテーション部門)	204 人	→	194 人
逆紹介率 (うちリハビリテーション部門)	119 人	→	116 人
	82.4 %	→	78.9 %
	93.0 %	→	93.5 %
	86.8 %	→	88.9 %
	90.8 %	→	100.0 %

医療機関との連携状況※21年度分は2月末日まで

② 連携体制

	平成20年度	→	平成21年度
登録医数 (うちリハビリテーション部門)	約420 名	→	約430 名
連携病院数 (うちリハビリテーション部門)	約260 名	→	約270 名
連絡会の設置	約120 件	→	約130 件
	約70 件	→	約75 件
	<input checked="" type="checkbox"/> 有		<input type="checkbox"/> 無
連絡会の開催件数	平成20年度 3 件	→	平成21年度 5 件
事例検討会等の開催件数	3 件	→	4 件

※急性期、回復期、維持期の流れを踏まえたリハビリテーションにおける連携状況を記入してください。

以前より活動していた、医療圏内の3次救急病院である青梅市立総合病院を中心とした西多摩TQM研究会(通称:西多摩プロジェクト)は連携用の患者情報シートを作成したところで、当医療圏にある西多摩医師会に引き継ぎ、医師会が東京都からの委託事業として「西多摩地域脳卒中医療連携検討会」を開催。西多摩プロジェクトで作成した患者情報シートを基に医療連携用と地域連携用からなる「患者情報シート」を作成し、地域医療連携用の情報伝達ツールとして活用されている。

また、当院は回復期リハビリテーション病院として、急性期および慢性期の医療機関との連携を増やし、地域医療連携パスでは慈恵医大が中心に行っているパスに参加、また東京都療養型研究会の急慢性連携委員会に参加し、救急病院から慢性期への連携についても積極的に参加している。なお、地域では入院医療機関だけでなく、地域の開業医や保健所、市町村、介護保険施設、障害者施設、また歯科(歯科医師会を含む)をも巻き込んだ連携を行っている。

③ 相談体制

地域の関係機関からの相談に適切に応じ、必要な情報を提供できる体制にあること

<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
相談体制	医療相談室の有無
<p>※指定を受けたことによる相談体制の変更点を記入してください。</p> <p>〔19年度に地域リハビリテーションに関する相談支援体制を当院医療相談室内に構築。20年度から本格的に相談支援を行っている。〕</p>	

	平成20年度	→	平成21年度
相談機関への支援	22 件	→	18 件
福祉用具等への相談に関する支援	2 件	→	0 件

④ 研修体制

地域のリハビリテーションに携わる従事者、家族会、ボランティア等関係団体に対し研修を実施で		平成20年度	→	平成21年度
地域リハビリテーションセンター等への研修、支援	実施回数	11 回	→	14 回
	(内訳) 院内 外	8 回 3 回	→	10 回 4 回
	参加者の延人数	933 人	→	738 人
	(内訳) 院内 外	461 人 472 人	→	491 人 247 人

※上記記載について 内訳の院内については当院内を会場として開催したものである。
※指定後、研修内容や実施規模などに変更点があれば記入してください。

当センターとしては、指定当初は『移乗動作』、『呼吸リハビリテーション』、『摂食・嚥下リハビリテーション』などをテーマの中心に研修会を開催してきた。また最近では『看護によるリハビリテーション』、『神経難病リハビリテーション』、『高次脳機能障害に対するリハビリテーション』などについても研修会を開催してきた。
 この2年は内容的に同じに近いものを研修会として提供してきたが、多くの研修会で参加募集人数を上回る参加希望をいただいているのが実情であり、地域で従事する各種スタッフのニーズに对应している結果ではないかと考えている。
 また会場については、医療圏内に100人規模の公の会場が少ないことを考えると、当院を主な会場にすることはやむを得ないと考えているが、今後は地域の施設や他の医療機関での研修会開催も検討していきたい。
 なお、ここ2年間の間に医師・歯科医師が数回研修会に参加していただけた。今後は、医師のリハビリテーションのニーズ把握等もした上で、医師をメインとした研修会も(当センター単独では、困難性も予測されるので医師会とも

3 平成20、21年度地域リハビリテーション支援事業実績報告書
 実施報告書 別紙1のとおり

4 平成22年度地域リハビリテーション支援事業実施計画 (参考)
 実施計画書 別紙2のとおり

平成20・21年度地域リハビリテーション支援事業実施報告書

医療機関名	医療法人財団利定会 大久野病院	
二次保健医療圏名	西多摩保健医療圏	
指定期間	平成20年4月1日から22年3月31日まで	
事業実施区域	保健医療圏内	福生市・羽村市・青梅市・あきる野市・瑞穂町・日の出町・奥多摩町・松原村
	保健医療圏外	八王子市・府中市
推進組織	名称	西多摩地域リハビリテーション支援センター
	構成	センター長：進藤 晃 (医療法人財団利定会 理事長) 医師：進藤 幸雄 事務長：半貫 勝美 看護部長：富加見 美智子 (看護師・認定呼吸療法士) リハビリテーション科長：長田 好弘 (理学療法士・認定呼吸療法士等) 医療相談室長：伊藤 正一 (社会福祉士・介護支援専門員) 訪問リハビリテーション・居宅介護支援事業所所長：柚木 祐子 (看護師・介護支援専門員)
	実施方法等	適宜会議等の開催にて

事業実施状況

(1) 地域リハビリテーション従事者の研修支援

平成20年度		平成21年度	
名称	高次脳機能障害研修会	自立支援用ロボットスーツ『HAL』の実演	
対象	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者・一般市民等	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者等	
実施規模	参加者：220名	参加者：18名	
実施期日	平成20年6月13日	平成21年5月26日	
テーマ、内容	・東京都心身障害者福祉センター・地域支援科長 小林敏氏より「東京都における高次の機能障害への取り組み状況について」 ・講演「夫と登る高次脳機能障害とイラエベレスト」(フエリス女学院大学 教授・立神粧子先生)	大和ハウス株式会社が開発および販売している、自立支援用ロボットスーツ『HAL』(自立支援型歩行補助用具)の紹介および、実演。担当センターとして、初めて企業とタッグして行なった研修会。	
名称	看護技術講習会	摂食・嚥下リハビリテーション研修会	
対象	看護師・介護士・理学療法士・作業療法士等	歯科領域スタッフ・保健師・栄養士・介護支援専門員等	
実施規模	第1回：32名・第2回30名	参加者：67名	
実施期日	平成20年6月6日・8月25日	平成21年6月11日	
テーマ、内容	テーマ：紙屋式看護技術講習～遷延性意識障害者へのかかわり～ 「ナースングバイオメカニクスの概念と実際(講義および実技)」(株式会社ナースングサイエンスアカデミー 原川静子先生) 講義および実技講習	テーマ：口腔ケアの重要性 講義：『口腔ケアの重要性 パートⅡ』(大川歯科医院 歯科医師 川延地先生) 昨年行なった研修会の続編。在宅での口腔ケアの実践や歯科衛生士、言語聴覚士との連携もお話しいたいた。	
名称	移乗動作講習会	移乗動作講習会	
対象	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者等	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者等	

実施規模		第1回：52名・第2回48名・第3回46名	第1回：48名・第2回45名・第3回44名
実施期日		平成20年8月20日・9月17日・10月15日	平成21年6月10日・7月8日・8月12日
テーマ、内容		(第1回) 「ホールアクトカバー法」 (@訪問看護ステーション 佐藤幸恵先生) (第2回) 「スライド法」 (介護老人保健施設 エンジェルコート 末肇純一先生) (第3回) 「寝返りから起き上がりまで」 (介護老人保健施設エンジェルコート 高城宗敏先生) 協力：動作介助研究会	「HNA理論』による移乗動作介助について」 (大久野病院 理学療法士・長田好弘 協力：動作介助研究会) 昨年引き続き、移乗動作の実習スタイルの研修会を開催。今年度は、リハスタッフだけでなく看護師・介護士の方にも多く参加いただいた。
名称		摂食・嚥下リハビリテーション研修会	看護技術講習会
対象		歯科領域スタッフ・保健師・栄養士・介護支援専門員等	看護師・介護士・理学療法士・作業療法士等
実施規模		参加者：21名	参加者：29名
実施期日		平成20年10月6日	平成21年7月23日
テーマ、内容		テーマ：「楽食について」 および調理実習 講義「楽食について」 および調理実習 (レストラン・モンラパン シェフ 佐山博昭先生)	テーマ：「紙屋式看護技術講習～遷延性意識障害者へのかかわり～」 「ナースングバイオマカニクスの概念と実際 (講義および実技)」 (株式会社ナーシングズサイエンスアカデミー 原川静子先生) 講義および実技講習
名称		特別講演会「高次脳機能障害の診断と治療」	摂食・嚥下リハビリテーション研修会
対象		医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者等	歯科領域スタッフ・保健師・栄養士・介護支援専門員等
実施規模		参加者：231名	参加者：30名
実施期日		平成20年11月6日	平成21年10月5日
テーマ、内容		・映像資料「映画『ガチボーイ』メイキング映像」 ・講演「高次脳機能障害の診断と治療」 (東京慈恵会医科大学 橋本圭司先生) ※南多摩地域リハビリテーション支援センターおよび西多摩リハビリテーション研修会との共催	テーマ：「楽食について」 および調理実習 講義「楽食について」 および調理実習 (レストラン・モンラパン シェフ 佐山博昭先生)
名称		呼吸リハビリテーションセッション研修会	地域交流会「認知運動療法の理論と実践」
対象		医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者等	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者等
実施規模		参加者：78名	参加者：約130名
実施期日		平成20年12月18日	平成21年11月8日
テーマ、内容		テーマ：「呼吸療法とは?～呼吸療法を学ぼう～」 ・講義「Squeezing勉強会」 (日産厚生会玉川病院 理学療法士 千葉哲也先生) ・講義「胸部のアセスメント」 (大久野病院 富加見美智子) ・実演講習「人工呼吸器の読み方」 (山口将未先生) ・実技講習	『認知運動療法の理論と実践』 (首都大学東京健康福祉学部 准教授・池田由美先生) 中枢神経系の可逆的と病的状況における学習についての神経生理学・神経生物学を基礎としているプログラムについて の講義。 ※南多摩地域リハビリテーション支援センターおよび西多摩リハビリテーション研修会との共催
名称		摂食・嚥下リハビリテーション研修会	看護技術講習会

対象	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者・一般市民等	看護師・介護士・理学療法士・作業療法士等
実施規模	参加者：99名	参加者：32名
実施期日	平成21年2月12日	平成21年11月18日
テーマ、内容	講義「摂食障害について～評価・診断とその対応～」 (医療法人尚寿会大生病院 耳鼻咽喉科 大前由紀夫先生)	テーマ：紙屋式看護技術講習～遷延性意識障害者へのかかわり～ 「ナーシンググバイオメカニクスの概念と実際（講義および実技）」(株式会社ナーシンググサイエンスアカデミー 原川静子先生 講義および実技講習 ※7月23日の研修会と同じ内容にて開催

名称	呼吸リハビリテーション研修会	呼吸リハビリテーション研修会
対象	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者・一般市民等	医療従事者・リハビリテーション従事者・介護従事者・一般市民等
実施規模	参加者：76名	第1回：43名 第2回：71名
実施期日	平成21年3月12日	平成22年1月21日・3月2日
テーマ、内容	テーマ：やさしく学ぶ呼吸療法 ・講義「やさしく学ぶ呼吸療法」(日産厚生会玉川病院 理学療法士 千葉哲也先生・大久野病院 富加見美智子) ・実演講習「人工呼吸器の読み方」(フジレスピロニクス株式会社 山口将未先生) ・実技講習	テーマ：呼吸療法とは？～呼吸療法を学ぼう～ ・講義「呼吸療法とは」(日産厚生会玉川病院 理学療法士 千葉哲也先生・大久野病院 富加見美智子) ・理学療法士 長田好弘) ・実演講習「人工呼吸器の読み方」(協力：フクダ電子株式会社) ・実技講習

名称	神経難病地域リハビリテーション研修会 医療関係者・リハビリテーション関係者	神経難病地域リハビリテーション研修会 医療関係者・リハビリテーション関係者
対象	医療関係者・リハビリテーション関係者	医療関係者・リハビリテーション関係者
実施規模	参加者：約60名	参加者：約60名
実施期日	平成22年2月13日	平成22年2月13日
テーマ、内容	・講義「神経難病リハビリテーションについて」(都立神経病院リハビリテーション科 医長・日野創先生) ・各分野に分かれての「ハンズオンセミナー」 ・講義「筋萎縮性側索硬化症の療養生活に於ける課題とその生活」(都立神経病院脳神経内科 医長・清水俊夫先生)	・講義「神経難病リハビリテーションについて」(都立神経病院リハビリテーション科 医長・日野創先生) ・各分野に分かれての「ハンズオンセミナー」 ・講義「筋萎縮性側索硬化症の療養生活に於ける課題とその生活」(都立神経病院脳神経内科 医長・清水俊夫先生)

名称	摂食・嚥下リハビリテーション研修会	摂食・嚥下リハビリテーション研修会
対象	歯科領域スタッフ・保健師・栄養士・介護支援専門員等	歯科領域スタッフ・保健師・栄養士・介護支援専門員等
実施規模	参加者：94名	参加者：94名
実施期日	平成22年2月19日	平成22年2月19日
テーマ、内容	講義「明日から役立つ口腔機能の診かた」(日本歯科大学付属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター 長 菊谷武先生) 介護保険における口腔機能に関する口加算等を推奨してきた先生による口腔ケアについての講義、VE・VFの動画等も用いて講義していただきました。	講義「明日から役立つ口腔機能の診かた」(日本歯科大学付属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター 長 菊谷武先生) 介護保険における口腔機能に関する口加算等を推奨してきた先生による口腔ケアについての講義、VE・VFの動画等も用いて講義していただきました。

名称		神経難病リハビリテーション西多摩交流会
対象		医療関係者・リハビリテーション関係者等
実施規模		参加者：27名
実施期日		平成22年3月7日
テーマ、内容		<ul style="list-style-type: none"> ・講義「都立神経病院での神経難病患者に対するリハビリテーションの実際」（都立神経病院 理学療法士 笠原良雄先生・作業療法士 南雲浩隆先生） ・症例検討「西多摩地域での連携」（大久野病院 作業療法士 菊池俊人） ・講義「東京都障害者IT地域支援センターについて」（東京都障害者IT地域支援センター 事務局長 堀込真理子先生）
特記事項	<p>リハビリテーションの内容を他の職種の仕事が理解するという観点から看護士・介護士を対象にしたことはチームアプローチを組むうえで有効だったという意見が多かった。とくに移乗動作、呼吸リハビリテーション、摂食嚥下リハビリテーション、高次脳機能障害へのリハビリテーションなどそれぞれの様な意見が多かった。</p>	
<p>（※）特に研修が必要と思った対象者、内容等あればご記入ください。</p>		

(2) 直接住民と接する相談機関の支援

平成20年度		平成21年度	
主な相談機関	一般市民・市町村・相談機関・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等	一般市民・市町村・相談機関・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等	
相談件数	24件	18件	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの算定日数に関するもの ・高次脳機能障害に関するもの ・摂食嚥下リハビリテーションに関するもの ・補装具作成に関するもの など 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害に関するもの ・摂食嚥下リハビリテーションに関するもの など 	
<p>特記事項 （※）特に相談が多かった内容等あればご記入ください。</p>			

(3) 福祉用具、住宅改修等への相談に関する支援

平成20年度		平成21年度	
主な相談機関等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等	—	
支援件数	2件	0件	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・補装具の作成に関するもの ・コミュニケーションツールの使用に関するもの 	—	

特記事項 (※ 特に相談が多かった内容等あればご記入ください。)	介護支援専門員からの治療用装具および補装具の作成方法など
-------------------------------------	------------------------------

(4) 地域の関係団体の支援

		平成20年度	平成21年度
名称		NPO法人 秋川流域生活支援ネットワーク	日の出町自立支援協議会
対象		障害者およびその家族等	町職員・障害者施設職員・家族会等
内容		・研修会への講師派遣 ・生活支援をしていく上での制度利用のアドバイス ・その他	・協議会への参加 ・政策策定へのアドバイス ・その他
名称		高次脳機能障害者の会 あきる野「こーゆー」	高次脳機能障害者・遷延性意識障害者および家族会「なんてんの会」(青梅市)
対象		高次脳機能障害者およびその家族等	高次脳機能障害者、遷延性意識障害者その家族等
内容		・研修会等の紹介 ・個別クワイエントへの相談支援 ・家族会運営のサポート ・支援者へのアドバイス ・その他	・研修会等の紹介 ・個別クワイエントへの相談支援 ・家族会運営のサポート ・支援者へのアドバイス ・その他
名称		高次脳機能障害者・遷延性意識障害者および家族会「なんてんの会」(青梅市)	
対象		高次脳機能障害者、遷延性意識障害者その家族等	
内容		・研修会等の紹介 ・個別クワイエントへの相談支援 ・家族会運営のサポート ・支援者へのアドバイス ・その他	
特記事項 (※ 特に要望が多かった支援内容等あればご記入ください。)		・高次脳機能障害のある方への支援 ・障害者(精神・知的・身体)への支援	など

(5) 連絡会、事例検討会の実施

		平成20年度	平成21年度
名称		高次脳機能障害者支援地域ネットワーク	西多摩地域リハビリテーションシヨン連絡会(訪問リハビリテーションシヨン部会)
規模		参加者：35名	参加者：15～25名程度
実施期日		平成20年5月16日	平成21年10月19日・11月24日・22年2月15日・3月1日・3月19日
内容		地域における高次脳機能障害者を取り巻く環境の現状等を確認。地域における支援者および団体を確認。	医療圏内になる訪問リハビリテーション提供施設を組織化。今年度は自分たちの課題の検討と介護支援専門員に対するニーズ調査を行った。
名称		西多摩医療福祉連携研究会	西多摩医療福祉連携研究会

	規模 参加者：14名(世話人)	平成20年12月6日	脳卒中を中心とした地域医療福祉連携の中で、リハビリテーションも含めた連携システムの構築と報告を目的とした研究会。	平成22年2月5日	脳卒中を中心とした地域医療福祉連携の中で、リハビリテーションも含めた連携システムの構築と報告を目的とした研究会。5月に事例報告会を開催することを決定。	
名称	規模 参加者：11名	平成21年2月21日	西多摩地域リハビリテーション連絡会(看護部会)	呼吸リハビリテーション症例検討会 参加者：25名	呼吸リハビリテーション症例検討会 参加者：25名	
	実施期日 平成21年2月21日	内容 西多摩第8医療圏 看護管理者連絡会と連携し、等センターの活動内容や研修会の案内を行い、地域リハビリテーションの普及に努める。	西多摩地域リハビリテーション連絡会(訪問リハビリテーション部会) 参加者：18名	平成21年1月21日・3月2日	昨年度同様に患者様を直接診ながらの症例検討会。(本人および家族からの同意承諾あり)スライドでの症例検討より、意見が寄せられた。また、夕職種アプローチの実践ができた、今後も開催して欲しいとの意見が出された。	
名称	規模 参加者：18名	平成21年3月13日	訪問リハビリテーションを実施している機関を集め、当センターの活動内容や研修会の報告を行い、現場での問題点等についても意見交換を行った。	摂食・嚥下リハビリテーション症例検討会 参加者：25名	平成21年1月21日	長く重症障害児等の在宅での口腔ケア等を行なっていた黒岩恭子先生(村田歯科医院)を招いて、先生たちが開発したクルリーナやモアアジジを用いた口腔ケアは頬のマッサージ方法などを実際に行ないながら検証した。
	実施期日 平成21年3月12日	内容 初めての患者様を直接診ながらの症例検討会。(本人および家族からの同意承諾あり)スライドでの症例検討より、意見が寄せられた。	呼吸リハビリテーション症例検討会 参加者：25名			
名称	規模 参加者：25名	平成21年3月12日	呼吸リハビリテーション症例検討会			
	実施期日 平成21年3月12日	内容 初めての患者様を直接診ながらの症例検討会。(本人および家族からの同意承諾あり)スライドでの症例検討より、意見が寄せられた。				
特記事項	<p>(※ 参加者から特に要望のあったこと、連携に関して他の医療機関にも取り組んだほうがいいと思われる工夫等あればご記入ください。)</p> <p>高次脳機能障害や在宅での摂食嚥下リハビリテーション、障害者の生活支援といった内容についてはチームアプローチが欠かせないものあり、他職種で連絡会を構築し事例検討などを行うことが有効と思われる。</p>					

(6) その他、地域のリハビリテーションの推進に必要な事業

名称	平成20年度	平成21年度
事項	地域リハビリテーション相談窓口	地域リハビリテーション相談窓口

内容	地域の市町村や各事業所、地域住民からのリハビリテーションなどに関する問い合わせや質問に対する対応窓口。専門の相談用紙を作成。	地域の市町村や各事業所、地域住民からのリハビリテーションなどに関する問い合わせや質問に対する対応窓口。専門の相談用紙を作成。
事項	地域リハビリテーション啓蒙事業	地域リハビリテーション啓蒙事業
内容	地域リハビリテーションの理解促進のためのパンフレットを作成し、市町村や各事業所等へ配布。	地域リハビリテーションの理解促進のためのパンフレットを作成し、市町村や各事業所等へ配布。
事項	全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会への参加	全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会への参加
内容	当センター自身の向上を目的として参加。地域リハビリテーションの普及と啓もう活動、地域リハビリテーション支援体制の推進に関する情報収集並びに情報提供と相互交流等を図る。	当センター自身の向上を目的として参加。地域リハビリテーションの普及と啓もう活動、地域リハビリテーション支援体制の推進に関する情報収集並びに情報提供と相互交流等を図る。今年度は協議会主催の研修会に参加した。

地域リハビリテーション支援事業を進める上での問題点、今後の対応等

○特に問題点があればご記入ください。

・以前に比べると、地域リハビリテーションの理解が進んだと思うが、まだ医学的リハビリテーションと混同されていることがある。

・在宅生活を担っている多くの開業医の先生方になかなか理解を得られない。

・リハビリテーションスタッフの組織化が少しずつ見えてきたが、施設間の壁もなかなか難しい。

○取り組んでよかったこと、他の支援センターにも薦めたい取組があればご記入ください。

・高次脳機能障害、摂食嚥下、呼吸リハビリテーションなど多職種アプローチをかけやすいものに対する研修会や事例検討会。

・30人規模程度の事例検討会。

・相談支援事業。 など

○今後の対応

・次の2年間で課題に思っていることはありますか、目標はありますか

・医療圏内のリハビリテーションスタッフの組織化。

・大規模なリハビリテーション事例検討会。

・歯科、口腔領域での多職種アプローチ(特に在宅)のシステム化。

・開業医の先生方へのリハビリテーションおよび地域リハビリテーションの啓蒙。

・大きく変化していただくことが予想される障害者の日常生活等へのアプローチ。 など

・協力病院を募る予定はありますか。

・福生市 公立福生病院(継続)

・羽村市 羽村三慶病院(継続)

・青梅市 多摩リハビリテーション病院(継続)

・あきる野市 あきる台病院(継続)

・日の出町 日の出ヶ丘病院(継続)

・瑞穂町 高沢病院(継続)

・奥多摩町 奥多摩病院(新規)

※協力病院から具体的には何を協力すれば良いのかという質問がありました。都としても見解があればご教授下さい。

・各支援センターで共通に取り組んだ方がいいたと思われる事柄がありますか。調査等「その他地域のリハビリテーションの推進に必要な事業」で実施したことも含めて答えてください。

・高次脳機能障害への対応

・地域リハビリテーションに関する相談支援

・調査リハビリテーション算定日数超の方のリハビリテーションニーズ」

・地域において特に支援のニーズを感じる事柄がありますか。

・奥多摩町や檜原村といった人口が少ない場所への支援

・急性期リハビリテーションを積極的に施行できる医療機関が少ない

・障害者等へのリハビリテーションの提供 など

○その他何かございましたら、ご記入ください。

・昨年度まで実施していた各センターの取り組みの報告会などはあってもよいのではないのでしょうか？（年1、2回程度）

・都として各地域リハビリテーション支援センターが実施する事業内容について、最低限これはというものがあっても良いのではないか？

日頃より、棟センターの事業実施にあたりご指導いただきありがとうございます。

今後とも、よろしく願います。